

令和5年度

第43回 中国地区公立学校教頭会研究大会（島根大会）

第35回 島根県公立小中学校教頭会研究大会（出雲大会）

# 大会要項

研究主題

「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」

～ふるさとを学びの原点に、自立、協働、創造していく心豊かな子どもの育成～

## 大会アンケート

- 今後の大会の参考とさせていただきますので、ご協力をお願いします。
- 大会終了後に以下のQRコードを読み取っていただき、ご回答ください。  
(ブラウザにURLを直接ご入力いただいてもご回答いただけます。)
  - 取りまとめの都合上、**11月24日(金)まで**にご回答ください。

【QRコード】



【URL】

<https://forms.gle/Dwq4tWfRMuv1FGRL6>

開催期日 **令和5年11月10日(金)**

開催地 **島根県出雲市**



中国地区公立学校教頭会 島根県公立小中学校教頭会





日御碕灯台



稲佐の浜

第43回 中国地区公立学校教頭会研究大会（島根大会）  
第35回 島根県公立小中学校教頭会研究大会（出雲大会）

## 大会要項

令和5年11月10日（金）発行

編集人兼発行人 中国地区公立学校教頭会会長 原田 淳  
島根県公立小中学校教頭会会長 平塚 靖男

発行 中国地区公立学校教頭会・島根県公立小中学校教頭会  
〒690-0866 松江市母衣町55 島根県教育会館内  
TEL・FAX：0852-27-8680  
E-mail：simatou5@galaxy.ocn.ne.jp

印刷所 有限会社 土江明文社

# 目 次

開催要項 .....	1
島根大会に寄せて	
中国地区公立学校教頭会会長挨拶 .....	2
島根県教育委員会教育長祝辞 .....	3
出雲市教育委員会教育長祝辞 .....	4
開会行事 .....	5
記念講演 .....	6
基調提案 .....	8
分科会 .....	12
提案テーマ一覧 .....	13
指導助言者・提案者・役員一覧 .....	14
分科会 提案 .....	15
分科会別参加者名簿 .....	38
大会役員・大会実行委員一覧 .....	44
会場図 .....	45

# 開催要項

## 研究主題

# 「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」

～ふるさとを学びの原点に、自立、協働、創造していく心豊かな子どもの育成～

●期 日 令和5年11月10日（金）

## ●日 程

9:30	10:00	10:30	10:40	12:00	13:00	15:30	15:40
受付	開会行事 基調提案	休憩	講演	昼食 移動	分科会	閉会 行事	

●会 場 〈全体会〉 出雲市民会館  
〈分科会〉 出雲市民会館  
ニューウェルシティ出雲

●記念講演 演 題 「子どもたちの未来に求めるもの ～外国語教育と異文化交流を通して～」  
講 師 島根大学教育学部講師 Dustin John Kidd (ダスティン・ジョン・キッド氏)

●主 催 中国地区公立学校教頭会 島根県公立小中学校教頭会

●後 援 山口県教育委員会 岡山県教育委員会 鳥取県教育委員会 島根県教育委員会  
雲南市教育委員会 出雲市教育委員会 島根県小学校長会 島根県中学校長会  
島根県教育研究会 雲南市校長協議会 出雲市小学校長会 出雲市中学校長会  
財団法人日本教育公務員弘済会島根支部 島根県教職員互助会



## 挨拶

中国地区公立学校教頭会

会長 原田 淳

第43回中国地区公立学校教頭会研究大会（鳥根大会）及び第35回鳥根県公立小中学校教頭会研究大会をここ出雲市で開催できますことを大変光栄に思っております。大会を開催するにあたり、山口県教育委員会、岡山県教育委員会、鳥取県教育委員会、鳥根県教育委員会、出雲市教育委員会、雲南市教育委員会、全国公立学校教頭会をはじめとする関係諸機関・諸団体の皆様から多大なるご支援をいただきましたことに、深く感謝いたします。

令和2年1月からの新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、本大会も開催方法の見直しを余儀なくされました。今回は昨年度の鳥取大会に続きハイブリッド開催（鳥根県内の会員を参集、鳥根県外の会員の方を参集・オンラインの参加）とし、限られた人数ではありますが県外の会員の方とも直接顔を合わせて学びを深める場を持つことができました。

本年度は全国統一研究主題第13期「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」（キーワード：自立・協働・創造）の1年次です。この主題を受けて「ふるさとを学びの原点に、自立、協働、創造していく心豊かな子どもの育成」をサブテーマとし、副校長・教頭としての在り方を追究していきます。本日は6課題6分科会で11の提案発表をもとに協議をしていきます。それぞれの分科会で活発に協議されることで、日々の問題を解決するアイデアが見つかり、明日からの業務に生かされることを願っています。

記念講演では鳥根大学教育学部講師のダスティン・ジョン・キッド氏をお招きし、「子どもたちの未来に求めるもの ～外国語教育と異文化交流を通して～」と題してご講演いただきます。出雲市をはじめ県内外の外国語教育と異文化交流に深くかかわってこられたキッド先生の講演を通して、予測困難な将来を生きる子どもたちの育成と副校長・教頭の在り方について示唆を得られるものと楽しみにしております。

結びになりますが、本大会開催にあたり、実行委員会を中心に出雲市・雲南市の教頭会の皆様が一つとなり準備を進めていただいたことに心から感謝申し上げます。本研究大会が、参加者の皆様にとって有意義で実り多きものとなりますことを心からお祈り申しあげ、開会の挨拶とさせていただきます。





# 祝 辞

島根県教育委員会

教育長 **野 津 建 二**

第43回中国地区公立学校教頭会研究大会（島根大会）及び第35回島根県公立小中学校教頭会研究大会（出雲大会）が、中国地方の各県から多くの皆様にご参加いただき、豊かな自然と歴史・文化に彩られたここ島根の地において、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

さて、本県では「ふるさと島根を学びの原点に未来にはばたく心豊かな人づくり」を基本理念とする「しまね教育魅力化ビジョン」（令和2～6年度）を策定しています。この教育ビジョンにおいては、育成したい人間像を、「自ら課題や展望を見だし、粘り強く挑戦し学ぶ人」、「人とのかかわりやつながりを大切にし、新たな社会を創造する人」、「自然や文化を愛し、自他を共に大切にす優しく強い人」と定めています。その中で、本県の教育の大きな特色は、子どもたちが人から直接学ぶことにあると思っています。「人からの直接の学び」とは、実社会の人に直接触れて、その人の人生や経験・知識、取り巻く社会を学ぶといった生の「人の暮らし」に触れることができる学びということです。この学びは、小・中学校等の「ふるさと教育」、高校・特別支援学校での「地域課題解決型学習」などで実践されています。こうした学びと学校の教科で学んだことを結びつけることで、子どもたちが将来実社会で生きるために必要な力が生まれ、ふるさと島根への愛着や誇りだけでなく、育った地域の将来に関わり、支えたいという思いを醸成しています。

こうした中で、「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり～ふるさとを学びの原点に、自立、協働、創造していく心豊かな子どもの育成～」を研究主題とする本大会が開催されますことは、島根県はもとより中国地区の小中学校教育の充実・発展にとって、大変意義深いものとなります。

本大会では、このような人間性や創造性を育てていくための学校づくりの在り方について、様々な視点から各学校での取組が発表され、協議されると聞いております。ご参会の皆様による活発な協議を通して得られた研究成果が、中国地区の小中学校教育のさらなる充実と発展につながることを期待しております。

結びに、本大会の開催に当たりご尽力いただきました関係者の皆様にご心より感謝申し上げますとともに、中国地区公立学校教頭会及び島根県公立小中学校教頭会の益々のご発展と、本大会の盛會を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。



# 祝 辞

出雲市教育委員会

教育長 杉 谷 学

第43回中国地区公立学校教頭会研究大会（島根大会）及び第35回島根県公立小中学校教頭会研究大会（出雲大会）が、中国地区各市町村から多数の方にご参加いただき、「縁結びのまち」出雲市において盛大に開催されますことをお祝い申し上げますとともに心より歓迎いたします。

新型コロナウイルス感染症が第5類に移行した中で、参加者のみなさんの各学校では、より一層子どもたちとしっかりと向き合い、それぞれの子に適した支援を行いながら、確かな学力の育成を図る取組を進めておられることに対し心から敬意を表します。

さて、出雲市教育委員会においては、昨年、今後5年間の出雲市教育の道しるべとなる第2期教育大綱や第4期教育振興計画を策定したところです。「家庭・地域・学校で育む出雲の教育～夢をもち未来を切り拓くしなやかでたくましい人づくり～」のテーマを掲げ、国連サミットで採択されたSDGsにもある「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するため、将来を担い、未来を創っていく児童・生徒を育成することを目指し、地域全体で取り組んでいくこととしています。

また、「出雲市教職員多忙化解消プラン」の見直しを行い、教職員の多忙化を解消するとともに、児童・生徒に向き合う時間の確保を目指しています。

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善やカリキュラムマネジメントが求められており、本大会の主題でもある「未来を切り開く力を育む 魅力ある学校づくり～ふるさとを学びの原点に、自立、協働、創造していく心豊かな子どもの育成～」は、まさに時代の要請に沿ったものと言えます。

小学校・中学校での教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を養う重要なものであり、集団活動を通して、自然や文化、社会に触れながら、特色ある教育活動が展開されていると同時に、高等学校等への接続を図るため様々な工夫をして取り組まれているものと思います。

本日、こうして中国地区の副校長・教頭先生方がハイブリット型開催により一堂に会して日頃の実践を情報交換し、また、研修を通して研鑽を深められようとするその熱心な取組に対し、心から敬意を表する次第であります。この研究大会を通じて、本日お集まりの副校長・教頭先生方には、より一層のリーダーシップを発揮され、よりよい学校教育を展開されることを期待しております。

結びとなりますが、本研究大会の準備・運営など開催にあたり、ご尽力いただきました皆様方に感謝申し上げ、また、本日の研究大会が参加された皆様にとって実りあるものとなりますことを祈念いたしますとともに、中国地区公立学校教頭会の益々のご発展と皆様のご健勝を祈念いたしまして、ごあいさつとさせていただきます。

# 開会行事

会 場 出雲市民会館大ホール

- 1 開会のことば
- 2 開会宣言
- 3 国歌斉唱
- 4 中国地区公立学校教頭会会長あいさつ
- 5 全国公立学校教頭会会長あいさつ
- 6 閉会のことば
- 7 連絡





Blank page with horizontal dotted lines for writing.

## 1 研究主題

# 未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり

～ふるさとを学びの原点に、自立、協働、創造していく心豊かな子どもの育成～

## 2 研究主題について

国際社会が激動し、超スマート社会の実現が目の前に迫っている今日、AIやビッグデータをはじめ身の回りのものが急速にデジタル化されてきている。これらによってわたしたちの生活が大きく変化することにより生じる、先を見通すことが困難な世の中を生き抜く子どもにどのような力を育ていけばよいのか、そのための副校長・教頭の役割はいかにあるべきかが問われる時代となっている。

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るったこの3年間を振り返ると、これまで当たり前だと思っていたことがそうではなくなり、「新たな生活様式」という言葉とともにわたしたちの日常生活が大きく変化した。その最たるものが急速なデジタル化への移行であると考え。お互い遠くにいながらにしての会議、在宅ワークの日常化、電子決済の普及と、人と人とのやり取りをはじめとしてあらゆるものが電子機器等を通して遠隔で行うことができるようになった。また、生成AIが登場し、AIによる文書作成や画像作成も容易にできるようになった。先般、文部科学省より子ども向けの生成AIガイドラインが公表されたが、今後、学校教育での活用についてさらに議論がなされていくことになるかと予想されている。

学習指導要領により「主体的・対話的で深い学び」「社会に開かれた教育課程」等が言われて久しいが、各学校においては、日々その実現に向けて学校運営や授業改善が行われている。学校教育においては、GIGAスクール構想により一人一台端末が配付され、子どもたちの学び方はもちろんのことわたしたちの指導方法も大きく変わり、教師の指導観の変革が求められている。令和の日本型学校教育にうたわれている「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現を目指し、一人一人の子どもの実態をとらえ、個に応じた指導への転換を図るとともに、話し合い活動等を通じた深い学びをいかに実現していくか、そこにどのように一人一台端末を活用していくか、わたしたちに課せられた大きな課題の一つである。

このような中にあり、わたしたちには、子どもたちに「未来を切り拓く力」をいかに育てるのか、そのための「魅力ある学校づくり」にどう取り組んでいくのか、教職員が力を合わせ、チームとして実践していく必要がある。全国的に教員不足が叫ばれており、年代別の教員人口を見ても、ミドルリーダーになるべき年代の教員の比率が低くなっている。このことにより円滑な学校運営や若手教員への指導技術等の伝達がなされなくなることがないように、副校長・教頭として働き方改革とバランスを取りながらより良い学校運営を推進していく必要がある。

今年度は、全国公立学校教頭会第13期全国統一研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」の1年次にあたる。今日の教育を取り巻く状況等を鑑みながら、これまで積み重ねられてきた実践をさらに進化発展させ、研究主題の実現を果たすことがわたしたち副校長・教頭の責務であると考え。

最後に、今大会において研究主題の実現に向けた各県の実践を紹介いただくことで、わたしたちは「自分がしたいことは何か」「自分にできることは何か」を考え、各校に持ち帰り日々の実践を積み重ね、第13期初年度の研究を推進していく所存である。



### 3 サブテーマについて

開催地である島根県は、各地域に豊かな自然、歴史・伝統、文化、産業があり、子どもたちの身の回りにある地域資源を活用したふるさと教育に積極的に取り組んでいる。地域での実体験や多様な人々との交流、対話的な学びを通じた身近な地域の人々とのかかわりは、学ぶ意欲や実践力を高め、思いやりの心の育成にもつながっている。

サブテーマの「ふるさとを学びの原点に」とは、島根県が取り組む「教育の魅力化」を推進することであり、ふるさとへの愛着と誇りを持ち、子どもたち一人一人が学びに向かう意欲を高め、「生きる力」を育てていくことである。そこで、ふるさと島根のもつ強みを生かしながら、各学校・地域の特色に応じて教育活動をどう展開していくか。具体的には、「①豊かな自然・歴史・伝統・文化といった地域それぞれの魅力や教育資源（ひと・もの・こと）を生かす、地域に開かれた教育」「②学校・家庭・地域が一体となり、子どもたち一人一人の魅力や個性を伸ばし、自己実現を支援する、主体性と多様性を尊重する教育」「③温かな人とのつながりや勤勉で粘り強い県民性を生かし、子どもも大人も共に学び続ける、対話的・探究的な教育」を実践していくことである。自分が生まれ育った地域を知り、直接経験することの中から、自分の住む地域を誇りに思う気持ちや自分を肯定的に捉えようとする気持ち（自己肯定感）が高まり、ふるさとを愛する子どもが育つと考える。

「自立、協働、創造していく」とは、生涯にわたって自ら考え学ぶこと、様々な問題を解決するために他者と協力して取り組むこと、これまでの経験をもとに自分のしたいことやすべきこと、将来について深く考えることを表している。これからの子どもたちには、社会の変化に適応するだけでなく、自らが自立して主体的に社会とかかわり、新たな価値を創造し、将来を創り出すことが求められる。そのためには、予測不可能な状況の中においても、問題となるものを見つけ、自ら「問い」を立ててその解決に向け、多様な人々と協働しながら、様々な資源を組み合わせ解決に導いていく力が必要となる。これらの探究的な学びを通して、心豊かな子どもを育てていきたい。

以上のことをふまえ、サブテーマを「ふるさとを学びの原点に、自立、協働、創造していく心豊かな子どもの育成」とし、魅力ある学校を創っていくために、わたしたち副校長・教頭が家庭・地域・教職員とどのようにかかわり、具体的に働きかけていくのか、追究していきたい。

### 4 研究の基本方針

副校長・教頭として日々実践していることを基に、どのような具体的方策や取組が有効であるか、「継続性」「協働性」「関与性」に焦点を当てた実践研究を通して明らかにしていく。

#### (1) 学校教育の課題の解決に努める

本研究は、保護者や地域の期待に応え、教育基本法及び学校教育法等の諸法規に定められた教育の目標を達成することを究極の目的とする。そのために自ら職能を高め、学校現場が抱えている課題の解決に努める。

#### (2) 副校長・教頭の職務内容や職務機能を追究する

学校運営において副校長・教頭として、校長や教職員とのかかわりを大切にし、自らの職務内容を実践的に追究するとともに、職務機能の充実を図る。

#### (3) 研究成果を政策提言活動（要請活動）に生かす

調査部による調査や研究活動・研究成果を生かした政策提言活動を基軸とし、学校教育を取り巻く環境の整備に役立てていくよう努める。

## 5 研究の全体構想

### 5 研究の全体構想

全国公立学校教頭会 全国統一研究主題 第13期（令和5年度～7年度）

未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり

キーワード：自立・協働・創造

第43回 中国地区公立学校教頭会研究大会（島根大会）

第35回 島根県公立小中学校教頭会研究大会（出雲大会）

研究主題

未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり

～ふるさとを学びの原点に、自立、協働、創造していく心豊かな子どもの育成～

「継続性、協働性、関与性」に焦点を当てた実践研究（3C）

「継続性」

これまでに解明されたことは何か  
残された課題は何か つかむ

「協働性」

同じ副校長・教頭としての同僚性  
開かれた関係をもとに 考える

「関与性」

副校長・教頭として 何をすべきか  
どうあるべきか どうかわるか

【第1課題】教育課程に関する課題

- ・信頼される学校づくりに資する「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価に関すること（カリキュラム・マネジメント）
- ・教育目標の設定と具現化に関すること
- ・教科横断的な視点に立った資質・能力に関すること
- ・教育課程の実施と学習評価に関すること
- ・幼・保・小・中・高・特別支援学校の連携に関すること
- ・小中一貫教育に関すること
- ・家庭や地域との連携及び協働に関すること

【第2課題】子供の発達に関する課題

- ・確かな学力の確実な定着に関わること
- ・児童生徒の豊かな人間性の育成に関わること
- ・児童生徒の健康・体力の増進に関わること
- ・生き抜く力やこれから求められる資質・能力の育成に関わること
- ・その他、児童生徒の発達を支える教育課題に関わること

【第3課題】教育環境整備に関する課題

- ・児童生徒の安心安全に関わること
- ・学校の施設設備に関わること
- ・学校、家庭、地域との連携と協働に関わること
- ・学校規模適正化に関わること
- ・文書事務、経理事務の管理に関わること
- ・教育の情報化に関わること

【第4課題】組織・運営に関する課題

- ・学校運営全般に関わること
- ・人材育成や組織力向上に関わること
- ・リスク管理や危機管理に関わること
- ・地域連携（コミュニティ・スクールなど）に関わること
- ・異校種連携に関わること
- ・その他、組織・運営に関わること

【第5課題】教職員の専門性に関する課題

- ・教職員の専門家としての意識高揚に関わること
- ・教職員の指導力等の育成に関わること
- ・教職員の研修に関わること
- ・教職員の服務に関わること
- ・学校段階間連携を通じた、教職員の課題意識の向上に関わること
- ・教職員の協働体制の構築に関わること
- ・教職員の学校運営参画意識の向上に関わること

【第6課題】副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題

- ・チーム学校における職務内容に関わること
- ・効率的な学校運営に関わること
- ・教職員の働き方改革に関わること
- ・教職員の支援に関わること
- ・副校長・教頭候補者の育成に関わること





# 分 科 会



## 分科会日程

13:00～15:30

- (1) 開会
- (2) 趣旨説明
- (3) 役員紹介
- (4) 進行説明
- (5) 提案①と協議
- <休憩>
- (6) 提案②と協議
- (7) 指導助言
- (8) 閉会
- (9) 諸連絡



# 分科会提案テーマ一覧

## 第1分科会 「教育課程に関する課題」

提案者

〔提案1〕 幼保小の連携による円滑な接続のための教育課程編成  
～ 幼保小接続推進リーダー育成事業の取組を通して ～

(鳥取県)  
鳥取市立面影小学校  
加藤 倫

〔提案2〕 地域の特性を活かした特色ある教育活動の推進と教頭の役割  
～ 保小中における組織的な連携とふるさと教育の取組を通して ～

(島根県)  
隠岐の島町立五箇小学校  
大濱 雪美  
隠岐の島町立五箇中学校  
永海 伸高

## 第2分科会 「子どもの発達に関する課題」

提案者

〔提案1〕 関わり合い、思いを重ねながら想像する子どもの育成  
～ こ小中連携とコミュニティ・スクールの取組を通して ～

(鳥取県)  
北栄町立北条小学校  
中川 由紀子

〔提案2〕 学校図書館活用教育の推進に関わる教頭の役割

(島根県)  
浜田市立第四中学校  
永見 英郎

## 第3分科会 「教育環境整備に関する課題」

提案者

〔提案1〕 持続可能な地域連携・協働するための教頭の役割  
～ 学校運営協議会・地域学校協働活動を中心として ～

(岡山県)  
浅口市立寄島小学校  
池上 宗一郎

〔提案2〕 『教育の魅力化』を持続的に推進する校務DX 確立のための学校間協働

(島根県)  
益田市立小野中学校  
松田 淳

## 第4分科会 「組織・運営に関する課題」

提案者

〔提案1〕 学校運営協議会と地域学校協働活動の運営をスムーズにするための取組  
～ 真庭支部全体でのICT活用をとおして ～

(岡山県)  
新庄村立新庄中学校  
小川 誠  
真庭市立湯原中学校  
木村 俊弘

〔提案2〕 市内小中学校の連携による組織的な授業改善に向けた取組  
～ 能力ベースの授業づくりの実施に向けて、大田市教頭会としての関わり ～

(島根県)  
大田市立大田西中学校  
土井 善浩

## 第5分科会 「教職員の専門性に関する課題」

提案者

〔提案1〕 未来をたくましく生き抜く子どもを育む魅力ある学校づくり  
～ 自立した学習者の育成と教頭の関わり ～

(山口県)  
美祢市立厚保小学校  
吉谷 亮

〔提案2〕 持続可能な研究・研修の在り方を考える  
～ 主体的に学び続ける教職員チームをめざして ～

(島根県)  
松江市立美保関中学校  
西村 勝美

## 第6分科会 「副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題」

提案者

〔提案〕 効率的で働きがいのある学校運営における教頭の役割  
“つなぐ・支える”をキーワードとして

(島根県)  
江津市立江津東小学校  
須藤 貴行

# 分科会関係（指導助言者・提案者・司会者・記録者等）

第1分科会「教育課程に関する課題」		
会場	市民会館 2F「202 多目的室」	
指導助言者	鳥根県教育庁教育指導課調整監	小室 淑子
提案者	鳥取県 鳥取市立面影小学校	加藤 倫
	鳥根県 隠岐の島町立五箇小学校	大濱 雪美
	鳥根県 隠岐の島町立五箇中学校	永海 伸高
司会者	鳥根県 海士町立海士中学校	道川 一史
記録者	鳥根県 出雲市立向陽中学校	川瀬 達雄
運営係	鳥根県 出雲市立平田中学校	佐藤 忠司

第2分科会「子どもの発達に関する課題」		
会場	ニューウェルシティ 2F「牡丹 A」	
指導助言者	鳥根県教育庁教育指導課 指導主事（兼）企画幹	橋本 憲
提案者	鳥取県 北栄町立北条小学校	中川由紀子
	鳥根県 浜田市立第四中学校	永見 英郎
司会者	鳥根県 浜田市立原井小学校	河村 恭子
記録者	鳥根県 出雲市立国富小学校	福田 秀治
運営係	鳥根県 出雲市立灘分小学校	岡村 朗

第3分科会「教育環境整備に関する課題」		
会場	ニューウェルシティ 2F「百合」	
指導助言者	松江教育事務所調整監	村本 有史
提案者	岡山県 浅口市立寄島小学校	池上宗一郎
	鳥根県 益田市立小野中学校	松田 淳
司会者	鳥根県 益田市立東陽中学校	宮田 茂樹
記録者	鳥根県 出雲市立北浜小学校	原 綾都
運営係	鳥根県 出雲市立朝陽小学校	原 浩司

第4分科会「組織・運営に関する課題」		
会場	市民会館 3F「301 会議室」	
指導助言者	鳥根県教育庁学校企画課調整監	笠柄 秀樹
提案者	岡山県 新庄村立新庄中学校	小川 誠
	岡山県 真庭市立湯原中学校	木村 俊弘
	鳥根県 大田市立大田西中学校	土井 善浩
司会者	鳥根県 大田市立朝波小学校	佐々木成之
記録者	鳥根県 雲南市立海潮小学校	安達 裕介
運営係	鳥根県 雲南市立西小学校	松本 博志

第5分科会「教職員の専門性に関する課題」		
会場	市民会館 3F「302 研修室」	
指導助言者	出雲教育事務所調整監	梅木 喜嗣
提案者	山口県 美祢市立厚保小学校	吉谷 亮
	鳥根県 松江市立美保関中学校	西村 勝美
司会者	鳥根県 松江市立湖南中学校	久保田 勸
記録者	鳥根県 雲南市立加茂中学校	津田由利恵
運営係	鳥根県 雲南市立吉田中学校	須田 秀樹

第6分科会「副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題」		
会場	ニューウェルシティ 2F「銀河」	
指導助言者	鳥根県教育庁学校企画課調整監	村上 修司
提案者	鳥根県 江津市立江津東小学校	須藤 貴行
司会者	鳥根県 江津市立桜江中学校	春木 二美
記録者	鳥根県 雲南市立加茂小学校	青木 拓夫
運営係	鳥根県 雲南市立斐伊小学校	野津 道人

## 幼保小の連携による円滑な接続のための教育課程編成 ～ 幼保小接続推進リーダー育成事業の取組を通して ～

提案者 鳥取県鳥取市教頭会

鳥取市立面影小学校 加藤 倫

### 提案のポイント（主旨）

- 幼保小の連携についての教育課程編成に関する教頭としての関わり方について
- 幼保小の取組が持続可能なものとなるようにするための在り方について

### 1 主題設定の理由

本校児童は、純朴で素直な性格の子供が多い。一方、人との関わりや集団生活への適応、学力に課題を抱える児童も少なくない。

本校校区内には2つの保育園、幼稚園があり、入学児童の約半数を占めているが、30カ所ほどにわたる様々な園からの入学児童も多い。小学校入学後、新たな人間関係の構築に喜びを感じる児童がいる一方、学校生活や学習への適応が困難な児童も存在する。

入学後の児童の適応を図って作成していた「接続カリキュラム」では形骸化が見られ、また、校区内の2園の園児と児童、職員同士による交流の少なさ等、幼保小連携による教育課程の編成や体制づくりにも課題が見られた。

令和2年度に「幼保小連携推進事業」、令和3、4年度に「幼保小接続推進リーダー育成事業」と、幼保小連携・接続に関わる鳥取県の事業を受けたことも関わり、校区の園と連携できる体制づくりを強化しながら、学校と園とが協働して「目指す子供像」、「接続カリキュラム」を共有し、整備を行っていくことで、園から小学校への滑らかな移行へつなげていくことができるのではないかと考え、研究主題を「幼保小の連携による円滑な接続のための教育課程編成」とした。

### 2 研究のねらい

小学校と幼保の接続を推進する職員の育成を図り、幼保小の円滑な接続を進める体制を整えながら、園との接続に関する教育課程を整備することによって本校に入学する児童の小学校生活や学習への適応を図る。

### 3 研究の概要

#### (1) 目指す子供像・接続カリキュラムの編成

- ① 校内の「幼保小接続推進リーダー」に指名された2名の教諭が中心となり、幼保小の連携と接続に関わる取組を行ってきた。

接続カリキュラム編成に当たり、小学校区の子供の実態把握と目指す子供像共有のため、幼保小接続推進リーダー会が職員全体にアンケートを取り、校区の子供の強みと課題を出し合った。アンケートでは、子供の「よさ」に、「人懐っこい。」「素直である。」「一生懸命がんばれる。」などがあがり、「課題」には、「話を聞くこと、伝えることが苦手。」「流されやすく指示待ちである。」「自信がなく、苦手なことはしたがらない。」などがあがってきた。この結果をリーダー会に持ち寄り、目指す子供像を「思いを伝え合い、つながる喜びを感じる子供」として、全教職員で共有できるようにした。また、目指す子供像の作成では、幼保小中15年間の子供の育成を図るため、中学校区のテーマ「みんなで育てた桜の木の下に集まろう 地域の笑顔」を基にした「中学校卒業までに育てたい子供の姿」を念頭に話し合った。

- ② リーダー会を通して具体的に育てたい子供の姿や育てたい力等の方向性を明らかにし、幼保小の接続カリキュラム編成を行った。各園作成のアプローチカリキュラム、学校作成の接続カリキュラムそれぞれに、幼児期の終わりまでに身に付けさせたい資質・能力と小学校で身に付けさせたい資質・能力を位置付け、実践を通して見直



し、加筆修正を行っているところである。また、学校生活への円滑な適応を図るため、スタートカリキュラムとして週案を作成し、学年内で共通したねらいや流れ、担任としての配慮事項等を共有するようにしている。

## (2) 小学校と園との連携年間計画の作成

園と学校が互いに連携し、交流を円滑に行うよう、子供同士、職員同士の1年間の交流計画を一覧にした。交流や連携が無理なく、持続可能なものとなるよう実践をしながら見直し、修正を行っているところである。

## (3) 園児と小学生、職員同士の交流

- ① 児童と園児の交流会では、主に1年生と園児、5年生と園児の交流を計画し、事前に互いのねらいを確認し合ったり、事後の振り返りを行ったりしてきている。また、園児が小学校の建物や教室、職員室などを見て回り、小学校の雰囲気や体験する機会を設けたり、5年生児童が園児との交流を行う事前学習として、各園の推進リーダーから園児との接し方や園の様子、保育する立場として意識していることなどを聞く機会を設けたりした。
- ② 教職員の相互理解と情報交換のため、保育体験や校区合同研修会を行った。いずれも夏季休業中に行ったため、新型コロナウイルス感染症拡大により、令和3年度は保育体験の中断や研修会の規模縮小をせざるを得なかった。令和4年度には、各園の先生方による本の読み聞かせや水泳の補助などの授業補助体験やリモートでの合同研修会などを行い、コロナ禍での可能な範囲で連携推進を実施した。合同研修会では、「幼保小接続推進リーダー育成事業」を活用し、県、市の指導主事に取組についての指導や県幼保小連携アドバイザーの講義を受けながら、連携強化を図ってきた。

## (4) 中学校区副校長・教頭会における取組

- ① 小学校区での幼保小連携の取組を広げる

ため、中学校区の副校長・教頭会に幼保小連携に関する情報交換を位置づけ、中学校区の各小学校の連携やカリキュラム編成に関わる情報交換や幼保の接続に関する課題共有をしている。

- ② 中学校区学校保健安全委員会の委員に各小学校区の幼稚園・保育園関係者を位置づけ、講演会と校区の子供たちの健全育成についての討議を行い、課題共有をしている。

## 4 研究の成果と今後の課題

### (1) 成果

- 「幼保小接続推進リーダー」が中心となった取組により、リーダーの育成ができ、「接続カリキュラム」、「交流計画」等が学校全体のものに浸透してきている。
- 幼保小で協働して「目指す子供像」の育成に取り組んだことで、円滑な接続のためのカリキュラムづくりに統一性が見られる。また、年間計画の作成により、ねらいを共有した交流や職員同士の情報交換が計画的に行われるようになった。
- 計画的な子供同士の交流や職員の補助体験により、新1年生児童が、入学後に見知った上級生や職員がいることでの安心感を得ながら幼保から小の接続ができるようになった。

### (2) 課題

- 教頭として、子供や職員同士の交流や体験、研修会に関するコロナ禍による制限や学校と園の情報交換の場の設定、日程調整等について難しさがあった。今後も持続可能な取組を行うための模索をしていく必要がある。
- 中学校区の副校長・教頭会を通して、園と学校との接続に関する情報共有を継続し、中学校卒業までの15年間を見渡した子供の育成に関わる成果と課題を共有しながら取組をしていく必要がある。

### 副校長・教頭が果たす役割

- \* 幼保小の連携に関する諸機関との連絡や日程の調整
- \* 幼保小連携に関する教育課程編成のための組織的な取組

## 地域の特性を活かした特色ある教育活動の推進と教頭の役割 ～ 保小中における組織的な連携とふるさと教育の取り組みを通して ～

提案者 島根県隠岐郡教頭会 隠岐の島町立五箇小学校 大 濱 雪 美  
隠岐の島町立五箇中学校 永 海 伸 高

### 提案のポイント（主旨）

- ふるさと教育を中心とした、保小中の教育活動の連携のあり方を検討し、学校と地域をつなげるための教頭の関わり方と役割について明らかにする。

### 1 主題設定の理由

隠岐郡教頭会では、令和元年度から知夫小中学校において、小中一貫校の強みを活かした特色ある教育活動の推進に取り組み、ふるさと教育という枠組みの中で、教頭の役割について考え、実践してきた。五箇中学校区は、保小中の3校園が隣接し、五箇教育推進会という連携した組織も存在しているため、知夫小中学校の取組の成果を「保小中連携」に活かせるのではないかと考えた。

五箇中学校区の強みは、「保小中が隣接しており、交流が盛んである」「地域に『保小中はつながっているもの』という意識がある」「地域が協力的で『ひと・こと・もの』を活用しやすい状況である」ということである。弱みは、「交流は盛んだが、どのような子供を育てたいかについての議論は不十分である」「互いの特色ある教育活動の共有が不十分」ということである。

そこで、研究主題を「地域の特性を生かした特色ある教育活動の推進と教頭の役割」、副題を「保小中における組織的な連携とふるさと教育の取り組みを通して」とし、研究を進めていくこととした。

### 2 研究のねらい

主題に迫るために、次の3点について取り組むこととした。

「①基盤づくり」既存の組織である五箇教育推進会の充実をはかることで、組織的な連携が強化され、より地域とつながった教育活動の充実が期待できるのではないかと考えた。

「②枠組みづくり」ふるさと教育の全体計画を作成し、目標・重点の共有、保小中ふるさと

教育の見える化を図れば、交流・連携が促進され教育課程のつながりができるのではないかと考えた。

「③教育課程の工夫・改善」ふるさと教育における「ひと・もの・こと」を活用した実践を通して、地域と教職員のつながりがより深まるのではないかと考えた。

取組における教頭の主な役割は、五箇教育推進会の積極的な運営と、ふるさと教育や総合的な学習の時間等の主任への働きかけや支援である。この2つの役割を担うなかで、教職員に対しての関わり方を明らかにするとともに、地域の教育資源をよりよく教育活動に結びつけ、子供たちの資質・能力の育成に寄与することを研究のねらいとする。

### 3 研究の概要

#### （1）五箇教育推進会の充実

五箇教育推進会は、保小中の教職員で構成されており、管理職部会と3つの委員会がある。各委員会の取組は担当者間で完了するので、個人の結びつきは強いが、集団（組織）としての結びつきは弱いものであった。そこで、個人のつながりから集団へのつながりを目指し、各委員会の取組内容の改革に取り組んだ。生活委員会では「どんな子供を育て、どんな力を高めたいか」について、保小中の生活委員全員で考えた。これらは、委員長を中心に、主体的に取組を考え実施することができた。

この取組での教頭の役割は、「推進会の運営の中心を担うこと」「委員長・副委員長との関わり」「委員会の確実な開催のための日程調整」である。特に委員長・副委員長との共

通理解は、主体的な活動を促進していくために重要であった。

## (2) 全体計画と一覧表の作成

小中の教頭とふるさと教育主任で意見交換をしながら五箇中学校区ふるさと教育全体計画を作成した。作成の際には五箇地区の主な地域資源や、めざす児童・生徒像、校区としてのふるさと教育目標、学年別の重点目標を示すようにし、9年間のふるさと教育を意識した。小中学校の取組を教頭が保育園に説明し、保育園でのふるさと教育の内容も盛り込んだ全体計画を作成し、保小中のふるさと教育のつながりの「見える化」を図った。作成した全体計画については、各校・園において共有する時間をつくり、五箇中校区の全教職員で共有することができた。

この取組での教頭の役割として大切なことは、各主任との関わりである。相談しやすい管理職を目指し、担当者との関係づくりに努めた。

## (3) 地域を活用した実践

五箇小学校では、総合的な学習の時間をふるさと教育の柱に据え、主任を中心として、全教職員で4年間の学びを通してめざす子供の姿を共有し、年間計画の見直しに取り組んだ。五箇地区の教育資源（ひと・もの・こと）を洗い出し、中学校での学びへの移行も意識しながら4年間の計画を作成した。各学年の実践に対して教頭は、単元計画作成や指導体制づくりを支援した。

五箇中学校で教頭は、ジオパーク学習、職業人講話、隠岐びとのこころ講話などの実践の支援に取り組んだ。特に、「隠岐びとのこころ講話」では、地域からの協力依頼を受け、担任と地域講師の橋渡し役を担った。

めざす児童・生徒像の実現に向け、主体的な実践ができるように場を整え、必要に応じてつないだり支えたりすることは教頭の大切な役割である。

## 4 成果と今後の課題

### (1) 成果

#### ① 保小中連携の深まり

五箇教育推進会の振り返りでは「子供の様子を話し合い、共通理解を図ることで、同じ目標に向かって活動に取り組むことができた」「授業参観を通して、活動や学習の様子がわかり、子供の成長を想像することができた」といった感想があった。五箇教育推進会として組織的に活動することで、五箇の子供たちを育てていく方向性を共有することができた。

#### ② 児童・生徒の意識変化

意識調査（中3）では、地域への貢献意欲や総合的な学習の時間への意欲が向上した。地域や社会をよくするために何をすべきか考える生徒や、総合の時間で学んだことが普段の生活や社会に出たときに役立つと思っている生徒が増えている。

#### ③ 教頭の役割の試行錯誤

五箇教育推進会の活動をふるさと教育の充実という視点を加えて見直しを図ることを通して、組織の運営者や保小中連携のコーディネーターとしての役割について深く考えることができた。また、小中教頭同士で意見交換を行う機会が増え、教職員への支援の在り方を話し合うことで、教職員へのよりよい関わり方を試行錯誤することができた。

### (2) 課題

#### ① 地域資源の活用とふるさと教育の充実

学校評価からは、「地域のひと・もの・こ学校評価からは、「地域のひと・もの・ことの活用」「ふるさと教育の取組」に工夫や改善の余地があるという結果が出ている。どのように取り組むのか、どのような工夫や改善が必要なのかということを全教職員で議論し、実践していくことが必要である。

#### ② 五箇教育推進会の充実

五箇教育推進会については、ふるさと教育の充実や教職員の主体的な取り組みを目指し、さらなる改善の必要がある。五箇地区のふるさと教育の基盤としての機能をさらに発揮できるようにしたい。

### 副校長・教頭が果たす役割

\* 五箇教育推進会の積極的な運営（教職員との共通理解）

\* ふるさと教育や総合的な学習の時間等の主任への働きかけや支援（整え、つなぎ、支える）



## 関わり合い、思いを重ねながら創造する子どもの育成 ～ こ小中連携とコミュニティ・スクールの取組を通して ～

提案者 鳥取県東伯郡公立学校教頭会

北栄町立北条小学校

中 川 由紀子

### 提案のポイント（主旨）

- 子どもの発達を支援するための園や校種間のスムーズな接続の実現と地域とつながる子どもの育成について

### 1 主題設定の理由

本校は、令和2年度より、始動したコミュニティ・スクールが、次年度には、近くにある中学校と一体化し、北条校区コミュニティ・スクールとして新たなスタートを切った。そして、北条校区コミュニティ・スクールではそのめざす人間像を「ときめく未来創る人 ～思い、思い出、思いやり～」とした。また、校区内にあるこども園（2園：うち1園は本校と隣接）とのこ小連携の取組も交流活動を中心に行っている。

本校の学校教育目標は「ともに、やさしく・かしこく・たくましく～豊かな地域コミュニティをつくる人を育てる～」である。その中の「ともに」には、北条校区コミュニティ・スクールのスタート時に、コミュニティ・スクールとしての学校の在り方を意識し、共生を意味する言葉として加えられ、「関わり合い、思いを重ねながら創造する子」をめざしている。

そこで、この「ともに」に重点を置き、長年継続されたこ小中連携と、スタートして間もないコミュニティ・スクールの取組を通して子どもの発達を支援したいと考え、本主題を設定した。

### 2 研究のねらい

子どもの発達の支援にあたり、本校では、地域および就学前から中学までの縦のつながりを強め、関わり合い、思いを重ねながら想像する

子どもの育成をめざしている。そのため、ここでは、こ小中連携とコミュニティ・スクールの取組において、校内や関係諸機関等との関わり方や活動にむけての教頭の役割を明らかにすることをねらいとする。

### 3 研究の概要

#### (1) こ小連携の取組

本校では、こ小連携は15年以上継続されている。コロナ禍の際、縮小した交流活動の見直しを中心に、こ小連携担当とともに、こども園と連携を取りながら、園との合同研修を位置づけた年間計画の見直しを行った。

#### ① 職員連携・研修会

- ・こ小連絡会
- ・合同研修会、公開授業、公開保育の参観

#### ② 子どもの交流活動

- ・5・5交流（5年生・5歳児）
- ・笑顔交流（5年生・3歳児）
- ・秋まつり交流（1年生・5歳児） 他

#### (2) 小中連携の取組

北条中学校との小中連携は20年近く前から取組まれている。この間に小中連携の組織も「働き方改革」や「コロナ禍」により少しずつ形を変えてきた。「まなび」「きずな」「くらし」のそれぞれのプロジェクトが充実した取り組みになるよう、校内の各プロジェクト担当、小中連携担当とともに、中学校側と連携を図りながら取組を行った。



### ① 学力向上に関わる取組（まなび）

- ・主体的・対話的で深い学びをめざした授業
- ・小中合同授業研究会の実施
- ・個に応じた細やかな指導による家庭学習力の充実
- ・SDGsに関する学びや活動への取り組み

### ② 交流活動の取組（きずな）

- ・小中連絡協議会
- ・小中交流活動
- ・読み聞かせ
- ・ほうじょう大トーク大会（6年生・中学生）

### ③ 小中の接続に関わる取組（くらし）

- ・学校保健委員会の連携
- ・円滑な接続のための生徒指導、教育相談

## (3) コミュニティ・スクールの取組

本校は、学校運営協議会の設置以前から、地域の方による通学路の見守り、小中学校での学習支援、読み聞かせ活動等が行われており、コミュニティ・スクール導入で、これまでの活動がより深まりつつある。コミュニティ・スクールでは、地域の自然や文化、地域の人との関わりを意識した学習活動になるよう、コミュニティ・スクール担当とともに、地域コーディネーターと連携しながら活動に取り組んだ。

### ① 「めざす子ども像」の共有

- ・学校運営協議会

### ② 学校教育の充実（地域の人と一緒に学ぼう）

- ・町たんけん（2年生）
- ・ぶどう学習（3年生）
- ・家庭科学習（5、6年生）
- ・ほうじょう大トーク大会（6年生）
- ・植樹体験（6年生） 他

## 4 成果と今後の課題

### (1) 成果

こ小連携、小中連携で合同研修会を行ったり、担当者同士が協議しあう場を設けたりしたことで、園や校種間の教職員の相互理解を図ることができた。

コミュニティ・スクールにより、子どもが、地域の方々に関わってもらえる場面が増え、肯定的な声掛けにより、子どもの自己有用感が育まれている。

### (2) 課題

こ小中連携、コミュニティ・スクールでたくさんの交流活動や体験活動に取り組んできている。これからは、活動の目的をより明確にし、活動が経験や学びとなり、子どもの成長につながっていると、教師も子どもも感じることができる取組にしていきたい。

### 副校長・教頭が果たす役割

\* 校内の分掌の主任等が行っている教育活動を見守り、支援し、その取組から学校組織を活性化させていく。

\* 校内、校外とも、人が変わっても継続できる仕組みづくり。

## 学校図書館活用教育の推進に関わる教頭の役割

提案者 島根県 浜田市教頭会

浜田市立第四中学校 永見英郎

### 提案のポイント（主旨）

- 市教育委員会との連携に関わる教頭の役割
- 学校図書館活用教育の推進に関わる教頭の役割

### 1 主題設定の理由と研究のねらい

浜田市では市教育委員会が主体となり、平成26年度から学校図書館活用教育事業を継続的に推進している。

市内全小中学校への学校司書配置をはじめ、学校司書、司書教諭等の研修、市独自の学校図書館活用教育研究事業指定校制度と、図書館を使った調べる学習コンクールの実施、市教育委員会に図書館活用教育担当の指導主事を置くことなどが主な事業内容である。

この事業により小中学校とも貸し出し数、利用者数等が大きく伸びており、以後令和3年度に至るまで多少の増減はあっても、数字を維持している。

学習指導要領にも情報活用能力の育成が重視されており、「学び方を学ぶ」学校図書館の活用は重要性を増している。

そこで、教頭の立場から市内各校の学校図書館活用教育をもう一度見直すとともに、「学校全体の学びを支えるインフラ」として、その推進を図ることを研究主題として設定した。

### 2 研究の概要

#### (1) アンケートによる課題の把握

市内各校の学校図書館活用教育の現状と、その中で教頭がどのような役割を果たし、また求められているのかを探るため、令和4年度に教頭、司書教諭、図書館担当教諭、学校司書にアンケートを実施した。

アンケートでは、市の事業を肯定的にとらえた回答が9割であり、読書量や貸し出し数の増加、授業における利活用が広がっているという回答が多かった。

特に、学校司書の配置が最も有効であるとの回答が多く、「人のいる学校図書館」が児童生徒の利用率向上に結び付いていることがわかった。

学校図書館活用教育に関わる教頭の役割は「指導助言」、次いで「全体計画や年間指導計画の策定」が多かった。この認識は教頭、司書教諭、学校司書に共通している。

教頭に求められる役割として「相談に乗る」「助言する」また、「学校図書館活用に関わる職員間の連絡調整」等が多く、「つなぐ」ことが教頭に期待されている。

また、図書資料を利活用する教科が増えつつある一方で、ネット検索で調べて済ませる傾向が強くなっているという指摘もあった。

#### (2) 市教育委員会との連携

アンケート結果から見えた課題を共有し、課題解決に向けた教頭の役割を探るため、市の担当指導主事を講師に市教頭会で学校図書館活用教育について研修を行った。

研修によって、これまでの「学校図書館ガイドライン」や「ステップアップ表」など浜田市が推進してきた指導、組織の体系について再認識することができた。

その中で、学校図書館運営協議会等の校内

組織（以下校内組織）が設置されていないか、または十分機能していない学校が多数あることがわかった。

また、市教育委員会の助言を受け、学校図書館の環境を整備する学校もあった。その学校は、市や県の機関と連携し、学校図書館に隣接する空き教室（旧PCルーム）を情報センターとして活用するため、「調べ学習室」と命名し、整備を行った。大きな机を設置してグループ学習ができるようにしたことで、各自が収集したネットの情報や図書資料、インタビューメモ等を広げて、活発に気づきや考えを交流し、効果的な発信を工夫する姿が見られるようになった。

### （3）学校図書館に関わる校内組織の活性化

アンケートの結果と教頭会研修、市教育委員会からの助言を受けて、学校図書館運営協議会等の校内組織を機能させることを確認した。

その結果、令和4年度には年度当初の開催が1割程度であったが、令和5年度には8割に増加した。

年度当初に学校図書館長である校長を始め、関係者で取組の計画を共有できたことは、短時間でも非常に有効であった。

実際に、学校図書館運営協議会を行ったことで、学校司書と連携した授業を行う機会が増えたり、図書館担当教諭が授業支援や委員会活動などで声をかけやすくなったり学校がある。

また、学校司書が新任者であっても、年間の見通しが持て、スムーズに学校司書と教員間の連携を図ることができた。

## 3 成果と今後の課題

### （1）成果

今年度改めて実施したアンケートでは「『楽しい、わかる、できる』と児童が意欲的に学ぶ姿が見られ、学力も身につけてきつつある。」「わからないことがあった時にインターネットだけでなく、学校図書館の本を活用して『調べる』『確認する』ようになってきた。」など、児童生徒の変容が見られた。

教頭として、組織的に学校図書館活用教育を推進していくことは、未来を生きる児童生徒に求められる資質・能力の育成に寄与し、経験の少ない教職員の負担を軽減しつつ、持続可能な職員の働き方改革を推進することにつながる。

### （2）課題

図書館活用に関わる職員を「つなぐ」ことが求められる教頭にとって、学校図書館運営協議会等は重要かつ有効な校内組織であることを再認識した。

特に教頭を含め、新任者、転入者がいる場合は効果が大きい。今後も教頭として、「つなぐ」ことを心がけていきたい。

#### 副校長・教頭が果たす役割

- \* 市教育委員会と連携を図りながら校内組織を活性化すること
- \* 学校図書館活用に関わる校内組織を機能させ、関係者をつなぐこと

## 持続可能な地域連携・協働するための教頭の役割 ～ 学校運営協議会・地域学校協働活動を中心として ～

提案者 岡山県浅口地区公立学校教頭会

浅口市立寄島小学校

池上 宗一郎

### 提案のポイント（主旨）

地域連携・協働の実態や課題を明らかにし、「学校地域における課題解決の取組にするためには」「学校と地域が無理なく継続できる取組にするためには」という視点をもって、地域連携・協働の在り方を考える。

また、このことを通して、浅口地区全体の地域連携・協働の活性化を目指す。

### 1 主題設定の理由

岡山県浅口地区は、県南西部に位置し、浅口市の3中学校区、里庄町の1中学校区から成っている。浅口市では平成30年度より、里庄町では令和3年度より、各小中学校（又は中学校区）に順次学校運営協議会（以下「学運協」という）を設置し、それぞれの地区の特色を生かした教育について話し合ったり、地域学校協働活動（以下「協働活動」という）を進めたりしてきている。

しかし、中学校区によって学運協の設置の仕方や協働活動の取組状況に違いがあることや、取組が進んでいても、異動による担当の入替りや取組内容についての悩みが出てきていることが分かった。

そこで、学運協や協働活動の役割を再確認し、10年後にも地域と家庭、学校の三者が無理なく関わりながら児童生徒を育てていくために、持続可能な地域連携・協働のあり方や、そこに関わる教頭の役割について研究を進めたいと考え、主題を設定した。

### 2 研究のねらい

小中学校の、学運協や協働活動を中心とした地域連携・協働の実態や課題を明らかにし、「学校地域における課題解決の取組にするためには」「学校と地域が無理なく継続できる取組にするためには」という視点をもって、地域連携・協働の在り方を考える。また、このことを通して、浅口地区全体の地域連携・協働の活性化を目指す。

### 3 研究の概要

#### （1）現状把握のためのアンケート・情報交換

##### ① 教頭どうして情報交換をする必要性

アンケートの実施により、同じ浅口地区内でも、学校（中学校区）によって、様々な取組を行っているところ、まだ立ち上げたばかりでどう進めてよいか分からないところなど、取組に大きなちがいがあることや様々な悩みがあることが分かった。そこで、他校（中学校区）の取組を実際に聞くために、教頭どうしの情報交換会をもつことにした。

浅口地区の教頭全員が参加し、異なる地区の教頭で小グループを作って情報を交換した。それぞれの取組や悩み、進め方についての質問など、活発に意見が交わされた。

（感想1）地域によって取組の差が大きいことが分かった。

（感想2）連携が進んでいる地域の実践は参考になった。それぞれの地区の実態にあった方法で地域とのつながりを深めていることが浅口地区の強みだ。

（感想3）どの学校（中学校区）も管理職以外の教職員に学運協を広げていくことに課題がある。

他にも「他地区の地域連携・協働の進め方がよく分かった」「色々な組織の形や取組があることが分かった」など、情報交換することの大切さを挙げる感想が多く聞かれた。また、学運協は、管理職や地域連携



担当のみの参加が多いため、学運協で話し合われたことが、教職員に広がりにくい、教職員が学運協を自分事として捉えにくいなどの問題点も見えてきた。

## ② 学運協について学ぶ場の必要性

情報交換会で話し合う中で、学運協について、教職員に正しいことを伝えていくためにも「学運協と協働活動の関係性やこれらの意義等について学びたい」という声があがった。そこで、講師を招いて講話をいただき、教頭全員で学運協・協働活動について学ぶことにした。

## (2) 講演会の実施

「コミュニティ・スクールと

地域学校協働活動の一体的推進」

～地域と学校の連携・協働の

必要性と可能性～

岡山県高梁市教育委員会社会教育課参事

安田 隆人 先生

(感想1) 学運協は学校長の考えの具現化を助けるもの、教頭や推進員はその応援者となること、対話を重ねることが大切、ということが印象に残った。

(感想2) 地域のことを知っている、人脈のあるキーマンをしっかりと押さえることが必要であると感じた。

学運協・協働活動の意義と必要性、進め方のポイント等、具体例を示しながら教えていただいた。

管理職以外の教職員に学運協や協働活動の必要性を教職員に伝えていくためにも意義のある講演会となった。

## (3) 各校の実践報告

(1)(2)での取組をふまえ、児童の健やかな成長をめざす「教育環境としての学運協・協働活動を、持続可能なものにする」という視点から、それぞれの学校(中学校区)

で実践したことを紹介し合った。

**(実践例1)** 熟議の会で「地域とともにつくる教育課程」と題し、学運協委員、教職員、保護者、児童、地域の方が一緒になって、どんな地域教材が教科に取り入れられるかを相談し、できることから実践した。教科書を見ながら相談したことで、学校のニーズが地域の方に伝わり、無理のない範囲で実践できたことで、教職員自身が学運協・協働活動を自分事として考えることができた。

**(実践例2)** 中学校区全体(1中学校+3小学校で1つの学校運営協議会を設置し、小中9年間を見据えた年間計画や、それを実現するための組織で取組をした。小中でめざす子ども像が共有でき、それを意識したゆとりのある年間計画ができた。運営も4校が持ち回りなので、事務方の負担は少ない。

## 4 研究の成果

### (1) 成果

- 他校や他地区の実践や現状を聞くことで、地域連携の進め方や可能性について大きく視野が広がった。
- 講演会を通して、地域を巻き込んで学校経営を進めることの重要性について理解できた。その理解をもとに、自分の学校の実践と比べ次年度以降の地域連携のあり方を見直すことにつながった。

### (2) 課題

- 地域の課題解決のために効果的に働いているか俯瞰し改善を図ること。
- 教職員へ学運協・協働活動について周知すること。
- 常に情報共有ができるよう教頭のネットワークを形成し、相談しやすい関係性を継続すること。
- 地域連携のために必要な経費のこと。

### 副校長・教頭が果たす役割

- \* 校長が進めようとする学校教育の意図を正確に理解し、学運協の活動を支えること
- \* 話しやすい雰囲気をつくり、課題解決に向けて対話を重ね当事者意識が高まるように工夫すること
- \* 管理職のみになりがちな学運協との関わりを広げるために、無理のない範囲で教職員が会議に参加する機会を設けること
- \* 熟議で共有した課題解決のための取組について、地域学校協働活動推進員や校内の地域連携担当を中心として地域学校協働活動につないでいくこと

# 『教育の魅力化』を持続的に推進する 校務DX 確立のための学校間協働

提案者 島根県益田市小中学校教頭会

益田市立小野中学校

松 田 淳

## 提案のポイント（主旨）

- 「教育の魅力化」を持続的に推進する校務DX確立のための学校間（教頭間）協働について
- 教員のICT活用指導力の向上や業務改善につながるICT活用について

## 1 主題設定の理由

島根県では、子どもたち一人一人に生きる力を育むために、学校・家庭・地域が目標を共有し、協働を図りながら島根の教育をよりよいものにしていく「教育の魅力化」に県全体で取り組んでいる。しかしながら、教員不足や感染症対策等により業務量は増え、各校で職員は日々の業務に追われ、「教育の魅力化」を推進する機運の醸成を図ることが難しい状況であると教頭の立場で感じている。

さらに、島根県西部に位置する益田市では人口減や少子化が進み、近年は中学校数も徐々に減ってきている。その影響により、学校間の地理的な距離が遠くなったことで、各中学校間での直接的な交流も減り、教員が集まって情報を共有する機会も減っている。教頭会においても、情報交換や研修の機会を十分に確保することが難しい状況であるといえ、コロナ禍によりさらに参集への制約を受けている。

一方で、GIGAスクール構想の実現に向け、益田市でもICT環境が整備され、感染症拡大防止と学校間の距離による利便性の向上の両面からその有効性が期待されている。

文部科学省が令和5年3月に示したように、GIGAスクール構想の下での校務DXの推進が求められている。校務DXについての情報共有を、整備されたICT環境を活用して教頭会で行うことにより、ある学校の取組を他校でも導入したり、共通の方法に揃えたりすることができると考えた。そうすることで、転勤の度に各校の方法の理解から始まる教頭業務の負担を減らし、「教育の魅力化」のために職員や生徒を

支援する時間を生み出すことを目指して本研究の主題を設定した。

## 2 研究のねらい

- ① 益田市教頭会として、「教育の魅力化」を持続的に推進していく校務DXを確立するための学校間協働の在り方を探る。
- ② 教員のICT活用指導力向上や業務改善につながるICT活用を教頭自らが進めていく。

## 3 研究の概要

### （1）益田市教頭会中学校部会でのICTを活用したの情報共有の実現

令和3年度までは益田市教頭会の部会が小中合同で地区ごとに分かれていたが、教頭業務において小中で異なることも多く、より実効性のある情報共有や研鑽の場となるよう部会構成を小中で分けて、市内中学校9校のみの中学校部会とした。そのことにより、多くの共通した業務について、詳細まで情報交換を行うことが可能となった。その一方で、学期に一度2時間程度の参集では共有できる情報は限られていたため、問題に対する具体的な方策については電話やメールで個別に相談する実態があった。

令和4年度の夏季休業中に職員のPC（Windows）が一新され、グループウェア（Teams）の操作についての研修が益田市教育委員会主催で行われたことで、Teamsを活用した学校間での日常的な情報共有が可能となった。教頭会中学校部会でもチームを作成し、研修会等の日程調整、日常的な課題

についての情報交換、コロナ対応等保護者配付文書の共有、各種報告書作成ファイル（Excel）の配付などを積極的に行うことができた。ファイルの使用方法について、部員である作成者を講師とした研修を教頭会の中で実施することもできた。

## （２）益田市事務支援グループとの連携

コロナ禍において、欠席連絡だけでなく、罹患や検査等の連絡に対して休日も含めて勤務時間外にも対応する状況となった。さらに教頭がその情報を整理して職員に周知する必要もあり、多忙を極めていた。コロナ対応はもちろん、通常の業務においても校務DXの必要性に迫られた。情報交換をする中で、市内小学校でICTの専門的な知識をもつ事務職員を中心に様々なシステムを運用している先進校の存在を知り、調査に伺った。そして、その学校の事務職員を研修会に講師として招き、以下の内容の研修を受けることができた。研修後さらに、教頭会と事務支援グループとの連携につながっていった。

- ・FormsとTeamsを活用したスマートフォン等での保護者からの欠席遅刻連絡と欠席・遅刻者が学級別に集約された一覧表の自動作成
- ・Formsから入力された保護者の希望をもとにした個人懇談表の自動作成
- ・職員朝礼廃止につながる掲示板（Yammer）と予定表（Teams）を活用した情報共有

## （３）情報共有や連携からの各校での新たな取り組み

Teamsを活用した日常的な情報交換から、各校でこれまで紙で行われていた業務に対して校務DXを進める以下のような取り組みが始まった。

- ・職員会議資料のデータ配付（Teams、共有フォルダ）
- ・Formsによる学校評価（職員、生徒、保護者対象）のアンケート配付、回答、集計

- ・健康観察を生徒自身が一人一台端末から送信
- ・Formsを利用した学校環境適応感尺度（アセス）を生徒指導部で実施
- ・Formsによる生徒へのいじめアンケート実施
- ・Yammerで生徒についての情報交換

## （４）益田市教育委員会との連携への発展

教頭会の校務DXのための連携の動きを受けて、益田市教育委員会が先進校の取組を参考にして全ての小中学校に波及させようと、アセスの実施方法をFormsに切り替えたり、欠席・遅刻連絡のシステムを専門業者の協力を得て作成・提供しようと動きだしていたりという新たな連携が始まっている。

## （５）今後に向けて県外校の情報収集

今後に向け、県外校を参考にするため全国教頭会研究大会（石川大会）に参加し、以下のような取組の情報を収集することができた。

- ・行事予定、出張、休暇、学校日誌等が一体となった校務支援システム（C4th等）の活用
- ・保護者文書のデータ配付（紙の配付なし）
- ・県配置DXコーディネーターとの連携

## ４ 成果と課題

### （１）成果

- ・教頭業務の負担軽減（時間外勤務の削減）
- ・職員、生徒、保護者の負担軽減
- ・異動先での教頭業務の効率化の期待
- ・校務DXの好事例の積極的な紹介によるチーム益田市教頭会中学校部会の一体感の醸成

### （２）課題

- ・学校の実状に応じた校務DX
- ・職員全体にとって有益なシステムづくりのための教頭間や教育委員会との連携
- ・行政や専門業者の協力を得た校務DXの推進（セキュリティや働き方の問題解決）

### 副校長・教頭が果たす役割

- \* 教頭自らが、ICTを活用し、教頭会の組織の中で持続的、協働的に業務にあたる姿勢をしめす。
- \* 教頭業務から全職員の業務まで、当たり前を見直し、働き方の改善を推進していく。



## 学校運営協議会と地域学校協働活動の運営をスムーズにするための取組 ～ 真庭支部全体でのICT活用をとおして～

提案者 岡山県真庭支部教頭会 新庄村立新庄中学校 小川 誠  
真庭市立湯原中学校 木村 俊弘

### 提案のポイント（主旨）

- 学校運営協議会と地域学校協働活動を活性化させるための取組について
- ICT活用（真庭支部教頭会のサイト作成等）の効果について

### 1 主題設定の理由

岡山県北部にある真庭支部内には、小学校21校・中学校7校の計28校の学校があり、ほとんどの学校が小規模校で、全体の半分にあたる14校がへき地・複式の学校である。少子高齢化も進み、地域の教育力も弱くなっている。このような背景から、「地域とともにある学校」と「学校を核とした地域づくり」の実現に向けて、学校運営協議会と地域学校協働活動を活性化させることが求められており、その運営の中心を担う教頭の一助となるよう真庭支部教頭会の組織の活用を考えた。研究の方法として、ICTを活用し、真庭支部教頭会として各校の取組状況の共有化を図り、各校の取組の参考にする。また、情報交換の場としての活用を図ることや、共有化されたデータベースによりいつでも閲覧できる環境を真庭支部教頭会として整えることが有効であると考えた。

### 2 研究のねらい

真庭支部教頭会として支部内の取組を共有し、そのデータベースを活用することで、学校運営協議会と地域学校協働活動の運営をスムーズに行うことができるようにする。

### 3 研究の概要

#### （1）取組状況調査の実施

真庭支部内の学校も、学校運営協議会と地域学校協働活動の取組が進んでいる。まず

は、各校の実情を把握し共有を図るため、グーグルフォームを活用し各校への調査を実施した。

- ① 学校運営協議会と地域学校協働活動について各校の取組状況を把握するために、グーグルフォームを活用して各校に調査を行い、その結果をグーグルスプレッドシートで集約してデータベース化した。
- ② 調査結果をもとに、教頭研修会で学校運営協議会と地域学校協働活動についてグループに分かれて情報交換・意見交換をした。
- ③ グループ協議で出された課題に対して、どのように取り組んでいくかについて研修部で話し合った。その結果、学校運営協議会と地域学校協働活動の取組の先行実施校を参考にしてみてもどうかという結論になり、先行実施校を3校に絞って、質問項目を決定した。
- ④ これらの質問項目について、先行実施校に「成功した事例」「工夫した事例」についてグーグルフォームで回答してもらい、グーグルスプレッドシートを活用してデータベース化した。

#### （2）講演会の開催

学校運営協議会と地域学校協働活動についての知識を深めるために、津山教育事務所の生涯学習課長を講師に招いて、『地域学校協働活動と学校運営協議会の連携・協働～これ



からの学校・家庭・地域のあり方を考える  
～』についての講演会を開催した。

### (3) 真庭支部教頭会のサイトの作成

当初は、先行実施校の回答を紙媒体で各学校に送付する予定だったが、データベース化してクラウド上で管理することで効率化を図った。また、各校の情報についても追加や変更をリアルタイムで可能とすることで、素早い情報の共有化の実現を目指した。さらに、何か質問や困ったことがあった際に気軽に相談ができる場所を作成した。

その結果、それらの施策を一元的に管理するために『真庭支部教頭会のサイト』を立ち上げた。

- ① 真庭市と新庄村とで共有することができなかったが、サイトを作成することで行政区を超えて共有することが可能となった。
- ② 学校運営協議会と地域学校協働活動を推進する中で、質問や困り感があれば気軽に聞けるような問い合わせ先（グーグルフォーム）を作成した。また、サイト内いつでも質問できる場所（グーグルスプレッドシート）も作成した。
- ③ 参考・活用できそうなサイトやページのリンク（文部科学省サイト、コミュニティ・スクール、学校と地域で作る学びの未来）を貼ることによって、効率的に学校運営協議会と地域学校協働活動について調べることができるようにした。
- ④ 自校での取組実践をあげることによって、真庭支部内で共有できるようにした。

## 4 成果と今後の課題

### (1) 成果

『真庭支部教頭会のサイト』を作成して、ICTを活用することによって、学校運営協議会と地域学校協働活動についての各校の取組状況や先進実施校への質問項目の回答状況等の把握をいつでも行うことができた。取組の共有により時間や距離の制約がなく情報を得ることができたことで自校の学校運営協議会と地域学校協働活動の運営をスムーズに行うことができた。

取組内容が共有されていることで、更に聞きたい場合は直接連絡をとることが容易に行えた。教頭研修会等の場で、データベースの情報を元にグループ協議を行うことで具体的話を多くすることができた。

### (2) 課題

教頭研修会のグループ協議では、大変活発に情報交換・意見交換ができていたが、『真庭支部教頭会のサイト』の中での質問や困り感への投稿が大変少なかった。日頃多忙な先生が多いので、サイトに投稿する時間の余裕がないのが原因であると考えられるが、もう少し活発にサイト上で意見交換ができればよかった。

ICT活用には個々に得意不得意があるために、全員が十分に活用できなかった。そのため、もう少し丁寧にサイトの説明や使い方についての時間を設ければよかった。

今後、毎年メンバーが入れ替わる中でデータベースを効果的に更新・活用していくためには、研修部を中心としたサイトの運用とデータベースの更新を進め、活用のための研修の充実を図る必要がある。

#### 副校長・教頭が果たす役割

- \* 学校運営協議会と地域学校協働活動を活性化させる。
- \* 地域と学校が連携・協働することで地域の教育力を向上させる。

## 市内小中学校の連携による組織的な授業改善に向けた取組 ～ 能力ベースの授業づくりの実施に向けて、大田市教頭会としての関わり ～

提案者 島根県大田市公立学校教頭会

大田市立大田西中学校

土井善浩

### 提案のポイント（主旨）

- 市内小中学校の連携による組織的な授業改善推進のために教頭会の果たす役割
- 組織的な授業改善推進に向けた、教育委員会等との連携の在り方について

### 1 主題設定の理由

大田市では、大田市教育委員会が主体となり、令和4年度より3年計画で「大田市学力育成プラン」が策定され、島根県立大学人間文化学部教授 齊藤一弥氏を事業アドバイザーとして、大田市内全ての小中学校において「能力ベースの授業づくり」の推進に取り組んでいるところである。

大田市教頭会では、「大田市学力育成プラン」に基づく「能力ベースの授業づくり」を各学校において具体的に実践していくにあたり、各学校単位の実践で完結せず、市内小中学校が連携し、組織的な取組につなげていく必要性を感じていた。その実現に向けて、大田市教頭会としてどのように関わり、役割を果たしていくかについて研究を進めることとした。

### 2 研究のねらい

各校で行われる授業改善の実践を教頭会において情報共有し、市内小中学校の連携による組織的な取組につなげていく。また、「能力ベースの授業づくり」を推進していくうえでの課題を共有し、事業主体である大田市教育委員会等との連携を図っていく。

### 3 研究の概要

#### (1) 訪問指導（通覧指導）情報共有

「大田市学力育成プラン」における「能力ベースの授業づくり」を推進していくため、

令和4年度より、市内全ての小中学校を対象に県立大学 齊藤教授と大田市教育委員会とで学校訪問指導（通覧指導）を実施している。学校訪問指導における授業の様子や授業研究の様子、齊藤教授からの指導内容等を教頭会で発表する機会を設定し、各学校で行われた学校訪問指導の内容を共有した。発表順は、年間を通じた学校訪問指導の日程を考慮して計画した。

また、教頭会において情報共有したことを各校で職員会議等において伝達し、各学校における「能力ベースの授業づくり」およびその後の学校訪問指導に生かしていく取組を行った。

#### ①実践事例（朝波小学校訪問指導の共有）

朝波小学校の訪問指導での齊藤教授の指導内容を次のように共有した。「能力ベース」とは、何を教えるかではなく「どんなことができるようになるか」ということ。

「学びを通して何ができるようにしたいのか」を考えること。「教科らしい学びのプロセス」を描くこと。「単元のゴール」をイメージする。単元はあるものではなく描くものであること。

#### ②実践事例（高山小学校訪問指導の共有）

高山小学校の訪問指導での複式学級における学習指導について、齊藤教授の指導内容を次のように共有した。学びのゴールは何か、なぜこの単元があるかなど、単元の

構成について統合的に捉える必要があること。学習対象を見極める、また、根拠を見極めること。プロセス志向で学びを描くこと、また、プロセスそのものが能力であることなどの指導内容を共有することができた。特に、複式教育の授業構成、教材、カリキュラム等について情報共有することができ、学びを深めることができた。

## (2) 教育委員会との連携

教頭会における情報共有により、「能力ベースの授業づくり」を実践していくうえでの課題も多いことを確認した。各学校においては、組織的に研究に取り組む時間を確保することが難しいことや、意識はしているものの「能力ベースの授業づくり」に日常的に取り組むことが難しいこと、内容ベースから能力ベースへ移行していくことの難しさを感じるといった課題や反省が出た。これらの課題は、多くの学校に共通するものであり、継続的な授業改善の取組を推進していくうえで、解決していかなければならない課題であると考えた。これらの課題を解決していくために、教頭会としてどのように関わっていくべきか検討を重ねた結果、実施主体である大田市教育委員会に対し、課題解決に向けた教頭会としての意見を提案することとした。

## 4 成果と今後の課題

### (1) 成果

○「能力ベースの授業づくり」ポイントの共有  
各校において学校訪問指導（通覧指導）に向けて、学習指導案の作成、指導案検討、授業実践等に取り組んだ。各教科において、「能力ベースの授業づくり」を意識した授業改善に取り組んでいるところであるが、研

究協議において、指導助言の齊藤教授から指摘されるポイントは、教科を通じて共通する点が多くあり、教頭会の発表を通じて共有する機会となった。

### ○「能力ベースの授業づくり」実践意欲の高揚

教頭会における各校の取組の発表は、各学校において職員会議等で情報提供したり、その後の学校訪問指導や授業改善に生かしたりすることができた。「能力ベースの授業づくり」のポイントを理解したうえで、学習指導案の作成や授業づくりに取り組むことができ、より具体的な実践につながった。発表後の感想からは、これまでの自校での取組を振り返り、さらなる改善に努めていく意欲や、「能力ベースの授業づくり」の推進のため研修を深めていく意識の高揚が感じられた。

### (2) 課題

#### ○組織的な取組について

授業改善の取組の実際は、各学校単位で行われることから、教頭会として関わりを持つことの難しさを感じた。教頭会で情報共有したことが、各校におけるその後の実践に具体的につながることをねらいとしたが、市内小中学校が一体となって授業改善の取組に向かっていくには、まだまだ課題が多いと感じる。

#### ○教育委員会等との連携について

授業改善の取組を実践していくうえでの課題を整理し、課題解決に向けた教頭会としての意見をまとめ、大田市教育委員会に伝えた。現段階において、教頭会の意見が具体化するには至ってはいないが、今後も、授業改善の組織的な取組を推進するため、教育委員会や他の外部機関との連携を深め、協働していく必要性を感じた。

### 副校長・教頭が果たす役割

- \* 組織的な授業改善推進のために、教頭会組織を活用し市内小中学校との連携を密にしていく。
- \* 組織的な授業改善推進に向け、教育委員会や外部機関等との連携を深めていく。



# 未来をたくましく生き抜く子どもを育む魅力ある学校づくり ～ 自立した学習者の育成と教頭の関わり ～

提案者 山口県美祢市公立学校教頭会

美祢市立厚保小学校

吉 谷 亮

## 提案のポイント（主旨）

- 教頭の専門性を高めることが、教職員の専門性を高めることにつながる。
- 美祢市教育委員会や小中学校との連携を図り、ICT等を活用しながら研修を活性化させる。

## 1 主題設定の理由

学習指導要領の趣旨の実現に向け、令和3年1月に中央教育審議会から「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）」が発表されたことは記憶に新しい。本答申では「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが重視されているとともに、次のような問題提起がなされている。「学校の臨時休業中、子供たちは、学校や教師からの指示・発信がないと、『何をして良いか分からず』学びを止めてしまうという実態が見られたことから、これまでの学校教育では、自立した学習者を十分育てられていなかったのではないかという指摘もある。」こうした指摘から学校には今まで以上に「自立した学習者の育成」が求められていると言える。

さて、本市では「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させる手法の一つとして「自由進度学習」に注目した実践が市内の数校で試行的に始まっている。「自由進度学習」は、子ども一人ひとりの特性や進度、学習到達度等に応じて学習を進めるものであり、「自立した学習者の育成」の一助となることが期待される。一方で、我々教頭が「自由進度学習」等を学ぶ機会は限られている。そこで、この機会に教頭自らが「自由進度学習」等を学び、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の在り方について

理解を深め、校内研修を活性化することは、教員の授業力や資質向上につながり、ひいては児童生徒を「自立した学習者」として育成できると考えた。

## 2 研究のねらい

児童生徒を「自立した学習者」として育成するため、教職員の授業力や資質向上に向けた校内研修の活性化に取り組む。

## 3 研究の概要

### （1）授業改善に向けた実態把握および本市の課題について（1年次）

美祢市内の教職員及び管理職にアンケートを行った。

#### ① 日々の授業作りについて

授業作りで困っていることを聞いたところ、7割近くの教員が「いつも困っている」「ときどき困っている」と答え、教材研究やICTの活用について困っていることが読み取れた。

#### ② 自由進度学習について

美祢市が推奨している「自由進度学習」については多くの教員が知っているが、実践している教員は3割程度であった。また、多くの教員は自由進度学習が「子どもの主体性を高める」「個に応じた学習課題や学習方法を選択できる」というよさを感じていることが読み取れた。さらに、「これまでの集団の指導の方がよいと思う」と



答えた教員は少数で、自由進度学習のような新しい形の授業手法の必要性を感じているのではないかと考えられる。

### ③ 管理職の実態

教員から「自由進度学習」についての指導助言を求められたときにどの程度対応できるのかという項目に対しては、7割近くの管理職が「あまりできない」「まったくできない」と答えている。以上のアンケート結果から、「多くの教員が授業作りや教材研究で困り感をもっている。」「多くの教員が自由進度学習の意義は理解しているが、実践までは至っていない。」「管理職の多くが自由進度学習の指導について自信をもっていない。」という傾向が読み取れた。

## (2) 「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実に向けた研修の在り方について(2年次)

教頭会としてアンケートの結果も踏まえながら、授業実践および研修の活性化に向けての研究を進めた。

### ① 教頭自身が学ぶ

- ・小中合同の研修会において、講師を招聘した研修会を開いた。市教委とも連携して講師の選定を行った。

### ② 教頭自身が実践してみる

- ・各自担当している授業において、教頭自身が授業実践を行った。

### ③ 教材作りや実践を共同で行う

- ・作成した教材は、市のTeamsで共有した。
- ・学年を解体した「スキルアップタイム」において、4つの自由進度学習のコースを設定し、それぞれのコースに複数の教員が入り、教頭がOJT的に支援を行った。

### ④ 市・小中で連携した研修活動

- ・小学校の算数科の授業において、中学校の数学科教員がアドバイスを行えるよう小中の教頭間でコーディネートを行なった。
- ・小中での互見授業が活性化できるよう研修主任と協力し、授業日程やその連絡、補教等の調整を行なった。

### ⑤ 実践や情報の共有

- ・Microsoft Teamsにおいて、「【自由進度学習】授業づくりの部屋」「教頭会」「小学校教職員」「中学校教職員」等のチームを作り、教材や授業の情報を教頭が積極的に発信していった。

## 4 成果と今後の課題

### (1) 成果

- ・教頭自身が、積極的に実践を行う姿を見せたことで具体的なアドバイスや関わりが可能になり、校内研修が活性化した。
- ・自由進度学習を自ら実践してみようとする教員が増え、相乗的に児童生徒の授業への主体性も高まっている。
- ・教頭が積極的にMicrosoft Teams等で情報発信したことで、自由進度学習に不安感をもっていた教員が減少した。
- ・美祢市教育委員会と連携することで市の方針に合わせて教職員の授業作りに寄与することができた。

### (2) 課題

- ・新規採用や初めて美祢市に勤務する教員の自由進度学習に対する理解への対応。
- ・教頭による実践の日常化。
- ・自立した学習者を育成するため、自由進度学習以外の学びのスタイルの可能性の模索。
- ・校内研修への教頭の適切な関わりを広がり。

### 副校長・教頭が果たす役割

\*全体の学びをどこまで高めることができるのかを各学校で考えながら具現化する。

\*専門性の向上のためには、教職員の現状から理想とする形を描く。

## 持続可能な研究・研修の在り方を考える ～ 主体的に学び続ける教職員チームをめざして ～

提案者 島根県松江市中学校教頭会

松江市立美保関中学校

西村 勝美

### 提案のポイント（主旨）

- 限られた時間の中で効果的に研究・研修を進めていくための教頭としての役割
- 主体的に学び続ける意識をチームとして醸成するための教頭としての役割

### 1 主題設定の理由

平成30年から令和3年にかけて、指導主事として各校の研究・研修を支援する立場を経験した。この4年間は、まさに新学習指導要領に移行する期間であり、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが求められた。

これからの時代を生きていく子どもたちの主体的な学びを支援するためには、教職員が学び続けることが必須である。各校を訪問して感じたのは、学び合い、高め合う教職員集団づくりには管理職のマネジメント力が重要であるということだった。

教頭として昨年度本校に赴任し、小規模校ゆえの一人一人の校務分掌の多さや新しい教育課題に対応するための多忙さから、いかに時間を生み出し、研究・研修への動機づけを図るかという課題に直面した。また、中学校がかねてより課題としている教科の専門性による協働的な学びの困難さも乗り越える必要がある。

以上のことから、教職員の学び続ける意識の醸成を図り、チームとして研究・研修を推進するために、教頭として何ができるのかについて考え、実践していく。ただし、それが大きな負担感を伴うようでは意欲の低下につながりかねない。持続可能な在り方を探っていくことを第一義として本主題を設定した。

### 2 研究のねらい

- 限られた時間の中で効果的に校内の研究・研修を進めていくには、どのように研究体制を構築すればよいか。
- 主体的に学び続ける意識をチームとして醸成するためには、教頭としてどのような役割を果たせばよいか。

### 3 研究の概要

#### (1) 研究の経過

##### ① 1年次（実態把握と実践、研究テーマの設定）

一人一研究授業の実施や、課題に応じて外部から講師を招いて研修したり、教頭自身が研修を企画したりするなど、良かれと思うことを次々に行ったが、場当たりの対応であったことは否めなかった。課題として見てきたのは、研究のゴールが共有できていないために、研究授業や研修が単発の活動で終わり、個々の実践につながっていないことだった。チームとして、具体的なゴールを設定することの重要性を痛感した。

##### ② 2年次（1年次の振り返りに基づく実践）

他の教員の研究授業を積極的に見に行き、チームとして学び続ける意識を高めるためには、強力な動機付けが必要である。校長の経営方針から研究のゴールや取組を精選し、研究主任とともに次のように進め

ている。

## (2) 取組の実際

### ① 共通のゴールと重点教科の設定

今年度は人権教育の公開授業があることに併せて、道徳科を重点教科とし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、ICT活用能力の向上という2点をゴールに設定し、具体的な方策として次のような取組を行っている。

○県の指導主事に年間を通した継続的な指導助言を依頼。(主として道徳科、特別支援教育)

○学年部の枠を超えたローテーション道徳(全員公開授業)の実施。

### ② 計画的な研究・研修時間の確保

○研究・研修職員会議の設定

毎週月曜日を「定例」「研究・研修」「生徒指導」の職員会議とし、年間を通して計画的に研究・研修に取り組めるようにした。

○ミニ研修の実施

職員会議のはじめの5～10分を使って、各教員による人権教育ミニ研修を継続して行う。

○小学校と協働の授業研究会の実施

小中一貫部会で計画し、全員参加することで、小学校の学びを知る良い機会となっている。中学校でなかなか進んでいないタブレットの活用についても多くの示唆を得ている。

### ③ 教頭による研修、公開授業の実施

教職員からのニーズに応じて「新学習指導要領の評価について」「総合的な学習の時間について」「道徳の授業づくりと評

価」などの研修を実施した。教職員がどのような情報を必要としているか把握し、実態に即して短時間で情報提供できるのが教頭の強みと言える。また、道徳科に関しては、教頭も各学級で公開授業を行っている。ロールモデルと言いたところだが、ICTを活用して見事に失敗したり、中途半端に終わった



りすることもある。だが、挑戦する姿を見せることに意義があると信じて取り組んでいる。

## 4 成果と今後の課題

### (1) 成果

今年度、同じ土俵で協議できる道徳科を重点に取り組んだことがよかった。生徒が自分事として考えるためにはどのような発問をしたらよいか、多面的・多角的に考えさせるためにはどのような仕掛けを取り入れたらよいかと考えることは、他教科の授業改善にもつながる。また、タブレットを使った協働的な学びについても、なかなか一步を踏み出せずにいた教員が多かったが、実際に活用した授業で生徒が生き生きと取り組む様子を見て、専門教科でも取り入れる教員が増えた。

### (2) 課題

一人一人が専門性の向上に向けて学び続けるためには、業務改善が欠かせない。学校行事や校務分掌、部活動の在り方等をさらに検討し、校内だけでなく、外部の研修や研究授業に参加できる時間の確保と意識の向上をめざしていきたい。

### 副校長・教頭が果たす役割

\* 研究部に積極的に関与し、明確なゴールを共有できるような研究・研修体制の構築を図る。

\* 教頭自ら、研修・研究授業に参画し、率先して学び続ける姿勢を示す。(失敗がむしろ効果的)



## 効率的で働きがいのある学校運営における教頭の役割 “つなぐ・支える”をキーワードとして

提案者 島根県江津市小中学校教頭会  
江津市立江津東小学校

須藤 貴行

### 提案のポイント（主旨）

- 教頭の職務内容・職務機能について、アンケートや意見交換等を通じて整理し、実態を明らかにする。
- 教頭自身の働き方を改善していく方法の一つとして、定期的な意見交換の場の重要性を提案する。

### 1 主題設定の理由

本分科会テーマ「副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題」では、教育課程に関する事、教職員の育成・支援に関する事、教育環境整備に関する事、働き方改革に関する事等、多岐に渡る諸課題の解決に向けて、教頭の職務内容・職務機能の実態を整理・共有し、より効果的で実践的な方策について議論を深めることが求められている。

江津市教頭会では、教頭の職務内容、職務機能に関する現状と取組について情報を共有した。その中で、日々の業務において教頭が取り組むべき内容として、校内の職員同士の連携、市教委と学校との連携等、学校内外のつなぎ役となることが組織として学校を運営するために必要不可欠なこと、また勤務時間短縮への取組とともに、一人一人の教職員の思いを受け止め、達成感や充実感が高まるように支援することが、教職員の勤務の質（やりがい）を高め、多忙感の解消や働き方改革の推進となることを確認し合った。

そこで、各校での教頭の職務内容、職務機能を「つなぐ・支える」をキーワードとして整理し、効率的な学校運営や教職員の育成・支援の具体的方策を挙げ、各校での実践に活かし、そしてそれを互いに評価していくことが本主題に迫る上で重要であると考え、研究主題を設定した。

### 2 研究のねらい

- 円滑な学校運営のため、校内の連携、他機関との連携における教頭の職務を整理し、よりよい方策を明らかにする。
- 教職員一人一人が充実感・達成感を得ながら

職務にあたるための教頭としての関わり方について、各校での取組・実践した内容を事例として提供し、お互いに意見交換することで、自校の業務への手がかりとする。

### 3 研究の概要

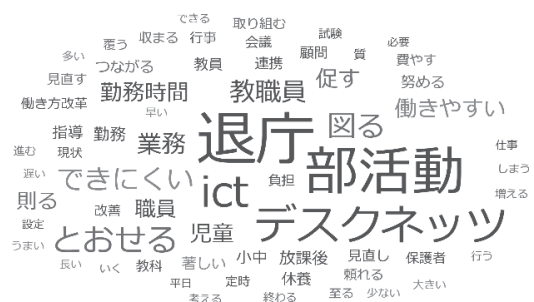
#### (1) 現状と課題の把握

教頭の職務内容、職務機能に関するアンケートを、市内小中学校教頭を対象に行った。調査項目は、全国公立学校教頭会発行の「令和4年度研究の手引き（全国共通研究課題の手引き）」を参考にし、自由記述で回答するものとした。

－アンケート項目－

- ① 日々の教頭業務で負担に思っている職務内容
- ② 効率的な学校運営にむけて取り組んでいること
- ③ 働き方改革に関して取り組んでいること
- ④ 教職員の支援に関して取り組んでいること

また、市内教職員に対するアンケート「江津市働き方推進委員会資料」をもとに、キーワードを抽出・焦点化して検討を加えた。



これらのアンケート結果から、多岐に渡る教頭の職務の中で特に重要な役割として、校



内や外部機関とのつなぎ役として機能すること（効率的な学校運営）、また教職員が充実感・達成感を得るために様々な面から支えること（働きがいのある学校運営）であるとし、この2点から教頭の職務内容・職務機能を整理し、研修会や本教頭会での意見交換を通して、その実態を明らかにしていくこととした。

## （2）具体的な取組

### ① 研修会の開催

ア. 目指せ！『スーパー教頭』

安来市立安田小学校校長

椿 英隆 氏（R4.8.9）

- ・ご自身のご経験をもとに、教頭時代に心がけていたこと、また校長の立場から教頭に期待することなどを大変分かりやすくお話しいただいた。

イ. ICTに係る研修「デスクネット活用研修」

T S K 情報システム株式会社

川神 佳太 氏（R5.3.3）

- ・本研修を通して得た内容を各学校で他の教職員に伝え推進したことにより、より容易に情報共有や文書管理がなされるようになり、ペーパーレス化や会議数削減等の業務の効率化につながった。

### ② 江津市小中学校教頭会での意見交換

ア. 効率的な学校運営に関する主な内容

校務支援システム（江津市ではデスクネット）の活用推進への働きかけ。文書や連絡事項の共有やアンケート機能の活用方法の紹介。



朝礼の廃止、職員会議の回数減

ペーパーレス化し、パソコンやタブレットにて情報の共有や伝達

校内（教職員同士、または教職員と支援員等）のつなぎ役、また校外（各機関、地域）とのつなぎ役を行い、よりスムーズな業務遂行と、より専門的な人材による教育活動の展開。



担当者の事前準備等の軽減

協力者を増やすことによる他の業務への波及効果

イ. 働きがいのある学校運営に関する主な内容  
－日々の業務での支援の例－

- ・労いのことは、感謝の気持ち、励ましの声かけ。

- ・信じて任せる。見守りながら支援する。

- ・教職員評価システムの活用。

－組織・配置からの支援の例－

- ・適材適所の校内分掌の配置。

- ・ミドルリーダーの育成、支え合う組織作り。

## 4 成果と今後の課題

### （1）成果

効率的な学校運営を進めていくために、校務支援システムの活用は必須である。そのために教頭が有効な使い方や他校の活用事例を把握しておくことは、自校の運用に大いに役立つ。本市教頭会で研修会や意見交換を実施し、教頭間で情報共有できたことは、各学校の業務の効率化を進める上で有効だった。

また、「つなぐ・支える」をキーワードに各学校の実践を出し合い、まさに“教頭業務の肝”について議論したことは、自身の職務の整理ややりがいを感じることに繋がった。

そして、小中学校全体で、また地域別や小中別に分かれて、市内の教頭同士で意見交換する機会を設けたことは、経験年数の違いに関係なく悩みや困り事を気軽に相談することができる貴重な機会になった。教頭会という組織が意見交換等の場として機能することは、自校のみならずその地域の職場環境の改善にむけた提言や要請活動につながるものである。江津市教頭会では今後も意見交換の場を設定していきたい。

### （2）課題

① 教頭本来の職務に専念するため、主幹教諭の全校配置等を国・県等へ要望していく必要がある。

② 業務改善等にむけた提言や要請活動を進めていくために、校長会や地教委との連携や擦り合わせの在り方を検討していく必要がある。

### 副校長・教頭が果たす役割

\* 校内の職員同士、また地域、地教委等とのつなぎ役

\* 先生方が子どもとよりよく関わるための支え役（時間確保、相談支援等）



第 43 回 中国地区公立学校教頭会研究大会 (島根大会)

第 35 回 島根県公立小中学校教頭会研究大会 (出雲大会)

# 参加者名簿





# 第1分科会 「教育課程に関する課題」

参集

41名

No	県名	学校名	氏名
1	山口	下関市立豊東小学校	瀧口 稔
2	岡山	赤磐市立山陽西小学校	岡村 彰紀
3	鳥取	鳥取市立面影小学校	加藤 倫
4	鳥取	鳥取市立桜ヶ丘中学校	道脇 豊
5	鳥根	松江市立忌部小学校	清山 智江
6	鳥根	松江市立川津小学校	喜多川昭博
7	鳥根	松江市立竹矢小学校	野島 博行
8	鳥根	松江市立城北小学校	曾田 和男
9	鳥根	松江市立中央小学校	青山 征司
10	鳥根	松江市立宍道中学校大野原分校	寺本 佑二
11	鳥根	安来市立島田小学校	津川 英昭
12	鳥根	出雲市立遙基小学校	山川 修司
13	鳥根	出雲市立今市小学校	加藤日出夫
14	鳥根	出雲市立神戸川小学校	宮本 大志
15	鳥根	出雲市立高松小学校	原 拓
16	鳥根	出雲市立長浜小学校	井上 裕史
17	鳥根	出雲市立高浜小学校	立原 哲也
18	鳥根	出雲市立中部小学校	森山 剛宏
19	鳥根	出雲市立碑原小学校	内田 英二
20	鳥根	出雲市立平田小学校	高見 亮一
21	鳥根	出雲市立西田小学校	後藤 英興

No	県名	学校名	氏名
22	鳥根	出雲市立さくら小学校	高橋 兼造
23	鳥根	出雲市立第二中学校	好川 光博
24	鳥根	出雲市立第三中学校	松原 広行
25	鳥根	出雲市立第三中学校	松村 敏明
26	鳥根	出雲市立平田中学校	佐藤 忠司
27	鳥根	出雲市立向陽中学校	川瀬 達雄
28	鳥根	出雲市立大社中学校	大樹 浩太
29	鳥根	雲南市立木次小学校	馬庭 利幸
30	鳥根	雲南市立海潮中学校	山根 一泰
31	鳥根	浜田市立旭小学校	三浦 伝
32	鳥根	浜田市立雲雀丘小学校	大床 敏之
33	鳥根	邑南町立口羽小学校	石川 和美
34	鳥根	邑南町立阿須那小学校	上野 暢彦
35	鳥根	益田市立匹見小学校	松原 聡
36	鳥根	海士町立海士中学校	道川 一史
37	鳥根	西ノ島町立西ノ島小学校	福島 大介
38	鳥根	西ノ島町立西ノ島中学校	井谷 恵介
39	鳥根	隠岐の島町立有木小学校	谷田 真也
40	鳥根	隠岐の島町立五箇小学校	大濱 雪美
41	鳥根	隠岐の島町立五箇中学校	永海 伸高

リモート

42名

No	県名	学校名	氏名
1	山口	岩国市立玖珂小学校	田村 武士
2	山口	和木町立和木小学校	中元 啓二
3	山口	田布施町立麻郷小学校	薬師寺恵理子
4	山口	周南市立徳山小学校	門岡 裕二
5	山口	周南市立今宿小学校	重岡 尚宏
6	山口	光市立光井小学校	橋本由紀子
7	山口	光市立東荷小学校	横瀬 理恵
8	山口	光市立上島田小学校	高木 秀樹
9	山口	防府市立牟礼南小学校	郡司 浩史
10	山口	山口市立湯田小学校	徳光 哲生
11	山口	山口市立興進小学校	大中 正浩
12	山口	山口市立阿知須小学校	村田 和久
13	山口	山口市立井関小学校	原田 恭子
14	山口	萩市立大島小学校	柳 精司
15	山口	下関市立豊北小学校	植田 陽子
16	山口	岩国市立麻里布中学校	船木 隆司
17	山口	周南市立富田中学校	谷村 直美
18	山口	光市立浅江中学校	神田橋芳幸
19	山口	光市立島田中学校	下岡 卓矢
20	山口	防府市立小野中学校	森王 範之
21	山口	山口市立阿東東中学校	金田 隆史

No	県名	学校名	氏名
22	山口	長門市立日置中学校	岡本 幸次
23	山口	宇部市立川上中学校	塩屋 賢子
24	山口	下関市立日新中学校	中村 晃司
25	山口	萩市立むつみ中学校	赤間 鈴世
26	岡山	備前市立伊里小学校	明石 昌幸
27	岡山	倉敷市立万寿東小学校	高尾 基嗣
28	岡山	井原市立井原小学校	関戸 弥香
29	岡山	高梁市立川上中学校	赤木 尚美
30	岡山	西粟倉村立西粟倉中学校	浦島 尚子
31	鳥取	境港市立余子小学校	八幡 明
32	鳥取	米子市立啓成小学校	遠藤東代子
33	鳥取	米子市立福生東小学校	玉木 敦子
34	鳥取	鳥取市立富桑小学校	伊藤 憲栄
35	鳥取	鳥取市立倉田小学校	國政 裕恵
36	鳥取	鳥取市立米里小学校	濱部 有希
37	鳥取	鳥取市立津ノ井小学校	西村 知子
38	鳥取	鳥取市立若葉台小学校	伊奈垣真吾
39	鳥取	南部町立会見小学校	岡田 勝彦
40	鳥取	日吉津村立日吉津小学校	谷口 俊則
41	鳥取	境港市立第一中学校	石塚 信男
42	鳥取	日野町立日野学園	渡部 紀子

## 第2分科会 「子どもの発達に関する課題」

参集

43名

No	県名	学校名	氏名
1	岡山	岡山市立角山小学校	井上 武士
2	岡山	岡山市立立西小学校	吉田美和子
3	岡山	新見市立新見南小学校	千種 典子
4	鳥取	北栄町立北条小学校	中川由紀子
5	鳥取	北栄町立大栄小学校	笠見 知枝
6	鳥取	北栄町立北条中学校	眞山 元樹
7	鳥取	鳥取市立日進小学校	佐々田裕子
8	鳥根	松江市立乃木小学校	別所 教徹
9	鳥根	松江市立来待小学校	小草 薫
10	鳥根	松江市立出雲郷小学校	田村 雅史
11	鳥根	松江市立持田小学校	岩井 幸子
12	鳥根	松江市立湖北中学校	松本浩一郎
13	鳥根	松江市立鳥根中学校	仲西 貴志
14	鳥根	安来市立宇賀荘小学校	大坂 泰司
15	鳥根	出雲市立大津小学校	石原 典子

No	県名	学校名	氏名
16	鳥根	出雲市立塩治小学校	曾田 史郎
17	鳥根	出雲市立灘分小学校	岡村 朗
18	鳥根	出雲市立国富小学校	福田 秀治
19	鳥根	出雲市立第一中学校	桑原 尚志
20	鳥根	出雲市立斐川東中学校	石原 康博
21	鳥根	雲南市立三刀屋中学校	阿川 美和
22	鳥根	雲南市立掛合中学校	古田真一朗
23	鳥根	浜田市立原井小学校	河村 恭子
24	鳥根	浜田市立長浜小学校	山本 康治
25	鳥根	浜田市立松原小学校	勝手 博美
26	鳥根	浜田市立美川小学校	大久保奈々
27	鳥根	浜田市立第四中学校	永見 英郎
28	鳥根	浜田市立浜田東中学校	山岡 修子
29	鳥根	浜田市立旭中学校	前原 靖子
30	鳥根	浜田市立第二中学校	高橋 英二

No	県名	学校名	氏名
31	鳥根	浜田市立金城中学校	山本 剛
32	鳥根	浜田市立弥栄中学校	岸本 浩孝
33	鳥根	邑南町立市木小学校	寺井 弦
34	鳥根	邑南町立石見中学校	三宅 誠幸
35	鳥根	津和野町立木部小学校	島田 謙一
36	鳥根	津和野町立津和野小学校	石橋 功子
37	鳥根	津和野町立日原小学校	名目良明利
38	鳥根	津和野町立日原中学校	林 健志
39	鳥根	吉賀町立六日市小学校	福島 淳次
40	鳥根	吉賀町立柿木小学校	坂野 智之
41	鳥根	吉賀町立六日市中学校	長島 靖和
42	鳥根	吉賀町立柿木中学校	塚本 達治
43	鳥根	吉賀町立吉賀中学校	渡邊美和子

リモート

52名

No	県名	学校名	氏名
1	山口	岩国市立由宇小学校	服部 和朗
2	山口	岩国市立装港小学校	村田 一郎
3	山口	柳井市立大畠小学校	岡崎 邦恵
4	山口	柳井市立小田小学校	中村 武仁
5	山口	柳井市立新庄小学校	柳本 美樹
6	山口	柳井市立柳北小学校	茂田 幸恵
7	山口	柳井市立余田小学校	松尾 佳子
8	山口	周南市立久米小学校	吉武 努
9	山口	周南市立周陽小学校	中村 元子
10	山口	下松市立公集小学校	浅野間智子
11	山口	下松市立公集小学校	水津多加志
12	山口	下松市立中村小学校	牧野うつき
13	山口	防府市立松崎小学校	常岡 敏行
14	山口	山口市立仁保小学校	中倉 宗利
15	山口	山口市立小鯖小学校	吉村 幸子
16	山口	山口市立大内南小学校	石川 幸男
17	山口	山口市立上郷小学校	重富 武彦
18	山口	山口市立さくら小学校	増田 幸夫

No	県名	学校名	氏名
19	山口	萩市立むつみ小学校	山内 久美
20	山口	下関市立誠意小学校	二瀬 隆雄
21	山口	下関市立長府小学校	古川 哲也
22	山口	岩国市立川下中学校	黒崎 泰寛
23	山口	岩国市立岩国西中学校	地紙 文子
24	山口	周南市立富田中学校	田中 賢治
25	山口	防府市立牟礼中学校	江頭 克友
26	山口	山口市立宮野中学校	井上 博文
27	山口	山口市立平川中学校	立場 篤史
28	山口	長門市立三隅中学校	三浦 昌子
29	山口	宇部市立楠中学校	中村 一文
30	山口	山陽小野田市立厚狭中学校	阿部 高明
31	山口	山陽小野田市立竜王中学校松原分校	岡田 達彦
32	山口	山陽小野田市立小野田中学校	阿部 直之
33	山口	萩市立越ヶ浜中学校	増重 克宣
34	山口	下関市立吉見中学校	曲 真理子

No	県名	学校名	氏名
35	岡山	岡山市立庄内小学校	大井 暁美
36	岡山	赤磐市立磐梨小学校	野田 忠宜
37	岡山	備前市立西鶴山小学校	富田 純子
38	岡山	瀬戸市立立行幸小学校	熊谷 直樹
39	岡山	備前市立吉永中学校	藤原磨由子
40	鳥取	米子市立就将小学校	清水 裕子
41	鳥取	米子市立車尾小学校	仁科 留美
42	鳥取	琴浦町立赤碓小学校	岸本 隆治
43	鳥取	倉吉市立上灘小学校	岩本 綾子
44	鳥取	倉吉市立社小学校	河原 久子
45	鳥取	湯梨浜町立泊小学校	濱家 功
46	鳥取	倉吉市立上北条小学校	生田 優介
47	鳥取	鳥取市立賀露小学校	山本 紀子
48	鳥取	鳥取市立世紀小学校	森下 裕一
49	鳥取	鳥取市立久松小学校	高橋 伸子
50	鳥取	鳥取市立修立小学校	徳橋 寛
51	鳥取	琴浦町立大栄中学校	妙泉 直子
52	鳥取	琴浦町立赤碓中学校	早田 晶

# 第3分科会 「教育環境整備に関する課題」

参集

45名

No	県名	学校名	氏名
1	山口	防府市立牟礼小学校	長田 英子
2	岡山	浅口市立金光吉備小学校	吉田 和弘
3	岡山	浅口市立寄島小学校	池上宗一郎
4	岡山	井原市立木之子小学校	妹尾 清伸
5	岡山	新見市立草間台小学校	佐々木千恵子
6	岡山	矢掛町立山田小学校	垣内 美和
7	岡山	矢掛町立中川小学校	山本 紀子
8	鳥取	大山町立中山中学校	松田 道明
9	鳥取	南部町立法勝寺中学校	角 裕史
10	鳥根	松江市立法吉小学校	常松 倫子
11	鳥根	松江市立津田小学校	福村 譲
12	鳥根	松江市立雑賀小学校	福間 亨
13	鳥根	安来市立比田小学校	佐々木紀子
14	鳥根	安来市立山佐小学校	山根 誠司
15	鳥根	安来市立南小学校	樋野 義之

No	県名	学校名	氏名
16	鳥根	安来市立広瀬小学校	小西 修二
17	鳥根	安来市立伯太中学校	原 浩
18	鳥根	安来市立広瀬中学校	田邊 冬樹
19	鳥根	出雲市立みなみ小学校	嘉藤真理子
20	鳥根	出雲市立朝陽小学校	原 浩司
21	鳥根	出雲市立北浜小学校	原 綾郁
22	鳥根	出雲市立伊野小学校	勝部 孝
23	鳥根	出雲市立窪田小学校	井上 伸治
24	鳥根	出雲市立浜山中学校	石橋 俊政
25	鳥根	出雲市立南中学校	北脇 訓
26	鳥根	雲南市立三刀屋小学校	伊藤 彰彦
27	鳥根	邑南町立矢上小学校	磯田 康一
28	鳥根	邑南町立日貫小学校	花崎 順之
29	鳥根	益田市立高津小学校	稲田 章一
30	鳥根	益田市立吉田南小学校	江角しのぶ

No	県名	学校名	氏名
31	鳥根	益田市立鎌手小学校	山田 恵
32	鳥根	益田市立西益田小学校	江角 貴行
33	鳥根	益田市立桂平小学校	杉内 直也
34	鳥根	益田市立戸田小学校	大田 裕
35	鳥根	益田市立東仙道小学校	田原 昭久
36	鳥根	益田市立都茂小学校	篠田 隆信
37	鳥根	益田市立益田中学校	石川 利久
38	鳥根	益田市立高津中学校	藤下 泰之
39	鳥根	益田市立益田東中学校	上田陽一郎
40	鳥根	益田市立東陽中学校	宮田 茂樹
41	鳥根	益田市立横田中学校	塩谷 覚
42	鳥根	益田市立小野中学校	松田 淳
43	鳥根	益田市立中西中学校	高橋 孝道
44	鳥根	益田市立美都中学校	和田 浩一
45	鳥根	益田市立匹見中学校	國近 英永

リモート

51名

No	県名	学校名	氏名
1	山口	岩国市立修成小学校	廣田 京子
2	山口	岩国市立麻里布小学校	藤井 大介
3	山口	周防大島町立明新小学校	津田 明美
4	山口	周防大島町立沖浦小学校	吉安 仁美
5	山口	周南市立秋月小学校	蔵本ひろみ
6	山口	周南市立富田西小学校	森重 郁子
7	山口	下松市立東陽小学校	田川 建一
8	山口	防府市立玉祖小学校	川合 宏史
9	山口	山口市立白石小学校	田中 隆生
10	山口	萩市立多磨小学校	河野 正義
11	山口	長門市立浅田小学校	橋本 展宏
12	山口	山陽小野田市立高千帆小学校	加藤 剛
13	山口	下関市立名陵小学校	生田 浩一
14	山口	下関市立川棚小学校	水田 智子
15	山口	岩国市立周東中学校	上羽 成也
16	山口	周防大島町立大島中学校	生村 伸二
17	山口	防府市立華陽中学校	藤井 信宏
18	山口	宇部市立黒石中学校	江本 直彦

No	県名	学校名	氏名
19	山口	山陽小野田市立竜王中学校	植野健二郎
20	山口	山陽小野田市立厚陽中学校	石丸 文紀
21	山口	下関市立文洋中学校	大田 誠
22	山口	阿武町立阿武中学校	森下 泰至
23	岡山	吉備中央町立円城小学校	山本 展之
24	岡山	赤磐市立山陽東小学校	原田 敏和
25	岡山	備前市立吉永小学校	森田 直美
26	岡山	里庄町立里庄西小学校	河田久美子
27	岡山	浅口市立金光小学校	石原 知子
28	岡山	浅口市立金光竹小学校	藤岡 隆
29	岡山	笠岡市立陶山小学校	田中 義昭
30	岡山	笠岡市立吉田小学校	加藤 靖雄
31	岡山	笠岡市立新山小学校	住田竜太郎
32	岡山	井原市立大江小学校	河合 浩
33	岡山	井原市立荏原小学校	田原 里美
34	岡山	矢掛町立川面小学校	二澤 弘和
35	岡山	新見市立西方小学校	石川三紀恵

No	県名	学校名	氏名
36	岡山	里庄町立里庄中学校	末廣 彩子
37	岡山	浅口市立鴨方中学校	菊池 勲
38	岡山	浅口市立寄島中学校	本郷 康子
39	岡山	矢掛町立矢掛中学校	日高 充和
40	鳥取	日南町立日南小学校	恩田 昌子
41	鳥取	境港市立渡小学校	森野 謙
42	鳥取	米子市立箕蚊屋小学校	乗本 学
43	鳥取	米子市立義方小学校	大西 圭司
44	鳥取	鳥取市立美保小学校	西田 規子
45	鳥取	大山町立名和小学校	赤川 智子
46	鳥取	伯耆町立溝口小学校	幅田 典代
47	鳥取	鳥取市立明德小学校	田村 純子
48	鳥取	鳥取市立西郷小学校	寺田 恭子
49	鳥取	米子市日吉津村立箕蚊屋中学校	安達 史典
50	鳥取	伯耆町立岸本中学校	森下 創平
51	鳥取	江府町立奥大山江府学園	山本 育朗

# 第4分科会 「組織・運営に関する課題」

参集

62名

No	県名	学校名	氏名
1	山口	山口市立中央小学校	竹中 聖二
2	山口	防府市立桑山中学校	宮崎 雅史
3	岡山	新庄村立新庄中学校	小川 誠
4	岡山	真庭市立湯原中学校	木村 俊弘
5	岡山	倉敷市立倉敷第一中学校	宗國 徳幸
6	鳥取	鳥取市立浜坂小学校	三谷 一孝
7	鳥根	松江市立鹿島東小学校	梅木 聖二
8	鳥根	松江市立佐太小学校	古藤 忠男
9	鳥根	松江市立母衣小学校	三代 和宏
10	鳥根	松江市立生馬小学校	小室由希江
11	鳥根	松江市立大野小学校	井上 浩子
12	鳥根	松江市立内中原小学校	奥原 章公
13	鳥根	松江市立志曇小学校	三浦 慶子
14	鳥根	松江市立八雲小学校	安部 顕
15	鳥根	松江市立古志原小学校	谷 徹
16	鳥根	松江市立意東小学校	野村 康徳
17	鳥根	松江市朝酌小学校	杉谷 洋美
18	鳥根	松江市立本庄中学校	郷原 正継
19	鳥根	松江市立第三中学校	上田亜由美
20	鳥根	松江市立第二中学校	越野千佳子
21	鳥根	松江市立義務教育学校玉湯学園	前島美佐江

No	県名	学校名	氏名
22	鳥根	安来市立飯梨小学校	藤田 敏治
23	鳥根	安来市立第三中学校	津田 昌彦
24	鳥根	出雲市立四絡小学校	宮本 崇広
25	鳥根	出雲市立荒木小学校	勝部 高良
26	鳥根	出雲市立斐川西中学校	三原 雄治
27	鳥根	出雲市立河南中学校若松分校	嵐 真一
28	鳥根	雲南市立西小学校	松本 博志
29	鳥根	雲南市立海潮小学校	安達 裕介
30	鳥根	雲南市立鍋山小学校	内田 誠
31	鳥根	雲南市立掛合小学校	打田 敦志
32	鳥根	雲南市立木次中学校	難波 淳
33	鳥根	飯南町立赤名小学校	園山 学
34	鳥根	飯南町立来島小学校	山根 満吉
35	鳥根	浜田市立石見小学校	鶴原 芳子
36	鳥根	浜田市立雲城小学校	小寺 正登
37	鳥根	浜田市立国府小学校	竹田 進吾
38	鳥根	浜田市立第三中学校	北川 史信
39	鳥根	大田市立大田小学校	和田真紀子
40	鳥根	大田市立長久小学校	永瀬 輝樹
41	鳥根	大田市立川合小学校	高木 優
42	鳥根	大田市立久屋小学校	田中 淳

No	県名	学校名	氏名
43	鳥根	大田市立静間小学校	進藤 一宏
44	鳥根	大田市立鳥井小学校	三浦 敏
45	鳥根	大田市立久手小学校	渡邊 英明
46	鳥根	大田市立朝波小学校	佐々木成之
47	鳥根	大田市立大森小学校	石田 雅裕
48	鳥根	大田市立高山小学校	松本 真二
49	鳥根	大田市立北三瓶小学校	和田栄一郎
50	鳥根	大田市立志学小学校	岩谷 和樹
51	鳥根	大田市立温泉津小学校	佐藤 綾
52	鳥根	大田市立仁摩小学校	山本 裕子
53	鳥根	大田市立第一中学校	山崎 勲
54	鳥根	大田市立第二中学校	宅間 邦晴
55	鳥根	大田市立第三中学校	花井 泰夫
56	鳥根	大田市立北三瓶中学校	古橋 広行
57	鳥根	大田市立志学中学校	泉 祐司
58	鳥根	大田市立大田西中学校	土井 善浩
59	鳥根	美郷町立大和中学校	柿田 勝洋
60	鳥根	美郷町立邑智中学校	福田 卓史
61	鳥根	邑南町立高原小学校	升本 広幸
62	鳥根	邑南町立瑞穂中学校	立木 光史

リモート

66名

No	県名	学校名	氏名
1	山口	岩国市立岩国小学校	田中 秀史
2	山口	岩国市立川下小学校	西村 洋道
3	山口	平生町立佐賀小学校	松本 圭
4	山口	田布施町立田布施西小学校	檜室 豊
5	山口	周南市立福川小学校	佐野さとみ
6	山口	周南市立福川南小学校	上田 賢一
7	山口	下松市立花岡小学校	藤田 晶代
8	山口	下松市立豊井小学校	富田 寛
9	山口	光市立鳥田小学校	加藤 健三
10	山口	防府市立中関小学校	弘中 達也
11	山口	山口市立大歳小学校	山縣 雅弘
12	山口	山口市立平川小学校	岡崎健太郎
13	山口	山口市立二鳥小学校	平田 俊文
14	山口	山口市立鑄銭司小学校	森田 和則
15	山口	山口市立小郡小学校	藤田 昌也
16	山口	山口市立秋穂小学校	富士本典子
17	山口	山口市立生雲小学校	杉山 武
18	山口	山口市立徳佐小学校	織田 英則
19	山口	萩市立明木小学校	兼田 充昭
20	山口	長門市立日置小学校	稗田 雅人
21	山口	下関市立西市小学校	山内 啓子
22	山口	下関市立豊浦小学校	伊藤 真里

No	県名	学校名	氏名
23	山口	下関市立角倉小学校	山田 良雄
24	山口	下関市立向井小学校	福村 貴博
25	山口	下関市立山の田小学校	河原 和美
26	山口	岩国市立岩国中学校	藤本 英治
27	山口	田布施町立田布施中学校	佐藤 淳
28	山口	周南市立福川中学校	平木麻美子
29	山口	周南市立周陽中学校	渡邊 博史
30	山口	下松市立下松中学校	立場 孝子
31	山口	下松市立末武中学校	磯崎 仁
32	山口	光市立大和中学校	怒和 勝宏
33	山口	山口市立小郡中学校	村上 伸一
34	山口	宇部市立東岐波中学校	宇多田久美子
35	山口	下関市立名陵中学校	原田 勝信
36	山口	下関市立垢田中学校	佐藤 潤
37	山口	下関市立向洋中学校	佐方美奈子
38	山口	下関市立勝山中学校	藤原 篤
39	山口	下関市立勝山中学校	河野 明弘
40	山口	萩市立須佐中学校	佐藤 雄吾
41	山口	萩市立川上中学校	池村 正隆
42	岡山	赤磐市立石相小学校	絹田 景輔
43	岡山	玉野市立田井小学校	松島 博子
44	岡山	玉野市立築港7小学校	藤井 明子

No	県名	学校名	氏名
45	岡山	倉敷市立富田小学校	角田 清美
46	岡山	新見市立刑部小学校	光島 由忠
47	岡山	瀬戸内市立行幸小学校	熊谷 直樹
48	岡山	岡山市立岡山中央中学校	森岡 淳
49	岡山	備前市立伊里中学校	須藤由美江
50	岡山	倉敷市立児島中学校	竹久 学
51	岡山	倉敷市立福田中学校	岡部 高之
52	岡山	高梁市立高梁中学校	赤木陽一郎
53	岡山	久米南町立久米南中学校	佐々部直紀
54	岡山	岡山県立岡山大安寺中等教育学校	宮木 秀樹
55	鳥取	倉吉市立上小鴨小学校	吉田 紀子
56	鳥取	倉吉市立関金小学校	筏津 孝行
57	鳥取	八頭町立船岡小学校	池井 康二
58	鳥取	八頭町立八東小学校	露木 克久
59	鳥取	鳥取市立中ノ郷小学校	木原 由美
60	鳥取	鳥取市立岩倉小学校	坂田 淳子
61	鳥取	岩美町立岩美西小学校	河合 淳一
62	鳥取	米子市立加茂中学校	富田 健一
63	鳥取	米子市立尚徳中学校	田貝太樹也
64	鳥取	鳥取市立湖東中学校	久住 茂
65	鳥取	鳥取市立国府中学校	村中ひろみ
66	鳥取	鳥取市千代南中学校	生田 聡史



# 第5分科会 「教職員の専門性に関する課題」

参集

42名

No	県名	学校名	氏名
1	山口	美祢市立厚保小学校	吉谷 亮
2	山口	美祢市立大嶺中学校	原川 智恵
3	岡山	岡山市立七区小学校	西本慎一郎
4	岡山	岡山市立芳泉中学校	福田 聡
5	鳥取	米子市立淀江中学校	山田 彰
6	鳥根	松江市立秋鹿小学校	永野 信吾
7	鳥根	松江市立美保関小学校	錦織 清子
8	鳥根	松江市立古江小学校	米原 哲治
9	鳥根	松江市立美保関中学校	西村 勝美
10	鳥根	松江市立第四中学校	三島 淳
11	鳥根	松江市立八雲中学校	奥田 徹
12	鳥根	松江市立第一中学校	松井 浩美
13	鳥根	松江市立湖東中学校	小川 純也
14	鳥根	松江市立湖南中学校	久保田 勸
15	鳥根	安来市立第二中学校	池田さゆり
16	鳥根	出雲市立塩冶小学校	吉廣恭由子
17	鳥根	出雲市立神西小学校	飯國 厚志
18	鳥根	出雲市立須佐小学校	板垣 恵
19	鳥根	出雲市立多伎小学校	藤井 芳枝
20	鳥根	出雲市立湖陵小学校	川上 壮
21	鳥根	出雲市立大社小学校	永見 正己

No	県名	学校名	氏名
22	鳥根	出雲市立莊原小学校	小川 宏幸
23	鳥根	出雲市立西野小学校	小林 真治
24	鳥根	出雲市立北陽小学校	有田 幸樹
25	鳥根	出雲市立佐田中学校	園山 正樹
26	鳥根	出雲市立多伎中学校	宮崎 圭司
27	鳥根	雲南市立寺領小学校	高橋 敦子
28	鳥根	雲南市立加茂中学校	津田由利恵
29	鳥根	雲南市立吉田中学校	須田 秀樹
30	鳥根	飯南町立頓原小学校	森原 幸司
31	鳥根	飯南町立志々小学校	大野 高裕
32	鳥根	飯南町立頓原中学校	星野 寿幸
33	鳥根	飯南町立赤来中学校	別所 祐司
34	鳥根	浜田市立三階小学校	東 忠孝
35	鳥根	浜田市立周布小学校	藤澤 伸治
36	鳥根	浜田市立第一中学校	小松原昌宏
37	鳥根	益田市立益田小学校	福原 奈美
38	鳥根	益田市立吉田小学校	並河 智之
39	鳥根	益田市立安田小学校	植田 充一
40	鳥根	益田市立真砂小学校	中村 浩志
41	鳥根	益田市立豊川小学校	山根 崇志
42	鳥根	益田市立中西小学校	飯田 美千

リモート

42名

No	県名	学校名	氏名
1	山口	岩国市立米川小学校	八道 昌恵
2	山口	岩国市立周北小学校	川野 素裕
3	山口	岩国市立美和西小学校	木村 満彰
4	山口	光市立三輪小学校	平尾 寛
5	山口	周南市立鹿野小学校	原田 知治
6	山口	防府市立華城小学校	深田 秀郷
7	山口	防府市立小野小学校	戸田 睦
8	山口	山口市立良城小学校	菊川 和彦
9	山口	山口市立良城小学校	福江 由美
10	山口	山口市立大内小学校	重岡 優文
11	山口	山口市立小郡南小学校	西嶋 浩次
12	山口	長門市立明倫小学校	池田 展代
13	山口	美祢市立麦川小学校	北本 徹
14	山口	美祢市立秋吉小学校	藤村 薫
15	山口	山陽小野田市立埴生小学校	長谷川敬子
16	山口	萩市立佐々並小学校	園木 真里
17	山口	下関市立小月小学校	近藤 裕昭
18	山口	下関市立江浦小学校	中藤 豊広
19	山口	下関市立岡枝小学校	山田 恵子
20	山口	下関市立生野小学校	矢頭 秀将
21	山口	岩国市立川下中学校	藤屋慎一郎

No	県名	学校名	氏名
22	山口	岩国市立錦中学校	藤本 剛
23	山口	防府市立右田中学校	小川 隆広
24	山口	山口市立湯田中学校	森井 鈴江
25	山口	宇部上宇部中学校	田中由起枝
26	山口	美祢市立伊佐中学校	河野 哲二
27	岡山	備前市立三石小学校	小坂 宣利
28	岡山	和気町立佐伯小学校	木村 真樹
29	岡山	美咲町立中央中学校	杉井 勝
30	岡山	奈義町立奈義中学校	山名 和仁
31	鳥取	境港市立外江小学校	岡田友志郎
32	鳥取	米子市立河崎小学校	石倉 和幸
33	鳥取	米子市立伯仙小学校	山本 晶子
34	鳥取	琴浦町立浦安小学校	磯江 孝
35	鳥取	琴浦町立船上小学校	福嶋 直美
36	鳥取	琴浦町立八橋小学校	小田 晴子
37	鳥取	鳥取市立湖山小学校	門脇 智子
38	鳥取	鳥取市立散岐小学校	佐々木摩樹
39	鳥取	鳥取市立遷喬小学校	中林 康与
40	鳥取	鳥取市立国府東小学校	竹田 潤
41	鳥取	鳥取市立青谷中学校	岸田 勇人
42	鳥取	鳥取市立湖南学園	前田 恵子

# 第6分科会 「副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題」

参集

47名

No	県名	学校名	氏名
1	山口	長門市立深川中学校	小松 義明
2	山口	山陽小野田市立小野田中学校	松本 成生
3	岡山	新見市立思誠小学校	金盛 優子
4	岡山	新見市立神代小学校	松本 幸恵
5	岡山	新見市立新砥小学校	光島 知里
6	岡山	新見市立本郷小学校	忠田 和江
7	鳥取	米子市立東山中学校	米原 真吾
8	鳥取	米子市立福生中学校いずみ分校	稲村 徹
9	鳥根	松江市立揖屋小学校	平塚 靖男
10	鳥根	松江市立東出雲中学校	玉木 篤史
11	鳥根	松江市立第一中学校	加本 正弘
12	鳥根	松江市立宍道中学校	木山 晴夫
13	鳥根	安来市立赤屋小学校	多久和朋之
14	鳥根	出雲市立上津小学校	飯國 秀忠
15	鳥根	出雲市立鱒淵小学校	加納 佳子
16	鳥根	出雲市立出東小学校	福谷 和彦
17	鳥根	出雲市立湖陵中学校	今岡 寿昭
18	鳥根	出雲市立河南中学校	廣野 克巳
19	鳥根	雲南市立加茂小学校	青木 拓夫
20	鳥根	雲南市立斐伊小学校	野津 道人
21	鳥根	雲南市立田井小学校	加藤 泰寛
22	鳥根	奥出雲町立布勢小学校	久保田康司
23	鳥根	奥出雲町立鳥上小学校	内田 伸
24	鳥根	奥出雲町立高尾小学校	古澤 俊司

No	県名	学校名	氏名
25	鳥根	奥出雲町立亀嵩小学校	有馬 陽介
26	鳥根	奥出雲町立馬木小学校	藤江 教隆
27	鳥根	奥出雲町立阿井小学校	森脇 淳志
28	鳥根	奥出雲町立三成小学校	高橋 伊尚
29	鳥根	奥出雲町立横田中学校	錦織 修司
30	鳥根	奥出雲町立仁多中学校	糸原 保弘
31	鳥根	江津市立郷田小学校	加藤 君江
32	鳥根	江津市立江津東小学校	須藤 貴行
33	鳥根	江津市立川波小学校	筆谷 俊之
34	鳥根	江津市立津宮小学校	山本 孝志
35	鳥根	江津市立高角小学校	森山 知之
36	鳥根	江津市立桜江小学校	佐々本 茂
37	鳥根	江津市立渡津小学校	近重 和幸
38	鳥根	江津市立江東中学校	堀 淳子
39	鳥根	江津市立青陵中学校	山下 積
40	鳥根	江津市立桜江中学校	春木 二美
41	鳥根	川本町立川本小学校	今井 慎也
42	鳥根	川本町立川本中学校	鳥居 祐志
43	鳥根	美郷町立邑智小学校	濱野 健一
44	鳥根	邑南町立瑞穂小学校	今田 敏英
45	鳥根	邑南町立石見東小学校	三島 浩
46	鳥根	津和野町立青原小学校	寺戸 淳公
47	鳥根	津和野町立津和野中学校	瀧谷淳一郎

リモート

24名

No	県名	学校名	氏名
1	山口	岩国市立美和東小学校	中野 敏晴
2	山口	下松市立下松小学校	桑原 泰樹
3	山口	萩市立椿東小学校	原田 圭介
4	山口	下関市立王司小学校	木島世史文
5	山口	下関市立養治小学校	井村 晃治
6	山口	岩国市立由宇中学校	藤本 陽
7	山口	周南市立岐陽中学校	長岡 香世
8	山口	下関市立東部中学校	西村 隆彦
9	山口	萩市立大島小中学校	田村 秀一
10	岡山	岡山市立灘崎中学校	中西 基文
11	岡山	吉備中央町立豊野小学校	片山 紀子
12	岡山	備前市立三石中学校	早川 政宏

No	県名	学校名	氏名
13	岡山	倉敷市立長尾小学校	廣田 巨史
14	鳥取	米子市立淀江小学校	井手 葉子
15	鳥取	倉吉市立成徳小学校	本間 敦子
16	鳥取	湯梨浜町立羽合小学校	森本 美保
17	鳥取	若桜町立若桜学園小学校	岩城 知子
18	鳥取	智頭町立智頭小学校	佐藤 秀樹
19	鳥取	鳥取市立美保南小学校	橋本 祥子
20	鳥取	伯耆町立八郷小学校	徳岡 慎哉
21	鳥取	岩美町立岩美北小学校	丸山喜美雄
22	鳥取	鳥取市立城北小学校	前田 浩
23	鳥取	倉吉市立河北中学校	河上 広美
24	鳥取	倉吉市立鴨川中学校	宮本 一宏

# 大会役員・大会実行委員一覧

役職名	氏名	学校名
大会会長	原田 淳	島根・松江市立乃木小
大会副会長	長田 英子	山口・防府市立牟礼小
大会副会長	宗國 徳幸	岡山・倉敷市立倉敷第一中
大会副会長	稲村 徹	鳥取・米子市立福生中いづみ分校
大会副会長	平塚 靖男	島根・松江市立揖屋小

役職名	氏名	学校名
大会実行委員長	後藤 英興	島根・出雲市立西田小
大会実行副委員長	永見 正己	島根・出雲市立大社小
大会実行副委員長	内田 英二	島根・出雲市立稗原小
大会事務局長	福谷 和彦	島根・出雲市立出東小
大会事務局	勝部 孝	島根・出雲市立伊野小
大会事務局	高橋 兼造	島根・出雲市立さくら小
大会事務局	藤井 芳枝	島根・出雲市立多伎小
大会事務局	好川 光博	島根・出雲市立第二中
大会事務局	森山 剛宏	島根・出雲市立中部小
総務部 部長	小川 宏幸	島根・出雲市立荘原小
総務部 副部長	小林 真治	島根・出雲市立西野小
総務部員	石原 康博	島根・出雲市立斐川東中
総務部員	三原 雄治	島根・出雲市立斐川西中
庶務部 部長	川上 壮	島根・出雲市立湖陵小
庶務部 副部長	井上 伸治	島根・出雲市立窪田小
庶務部員	園山 正樹	島根・出雲市立佐田中
庶務部員	今岡 寿昭	島根・出雲市立湖陵中
庶務部員	板垣 恵	島根・出雲市立須佐小
研究部 部長	高見 亮一	島根・出雲市立平田小
研究部 副部長	加納 佳子	島根・出雲市立鱒淵小
研究部員	佐藤 忠司	島根・出雲市立平田中
研究部員	川瀬 達雄	島根・出雲市立向陽中
研究部員	岡村 朗	島根・出雲市立灘分小
研究部員	福田 秀治	島根・出雲市立国富小
研究部員	原 浩司	島根・出雲市立朝陽小
研究部員	原 綾郁	島根・出雲市立北浜小
研究部員	松本 博志	島根・雲南市立西小
研究部員	安達 裕介	島根・雲南市立海潮小
研究部員	須田 秀樹	島根・雲南市立吉田中
研究部員	津田由利恵	島根・雲南市立加茂中
研究部員	野津 道人	島根・雲南市立斐伊小

役職名	氏名	学校名
研究部員	青木 拓夫	島根・雲南市立加茂小
運営部 部長	宮崎 圭司	島根・出雲市立多伎中
運営部 副部長	大樹 浩太	島根・出雲市立大社中
運営部員	山川 修司	島根・出雲市立遙堪小
運営部員	勝部 高良	島根・出雲市立荒木小
運営部員	難波 淳	島根・雲南市立木次中
運営部員	馬庭 利幸	島根・雲南市立木次小
会員部 部長	飯國 秀忠	島根・出雲市立上津小
会員部 副部長	石橋 俊政	島根・出雲市立浜山中
会員部員	石原 典子	島根・出雲市立大津小
会員部員	宮本 大志	島根・出雲市立神戸川小
会員部員	原 拓	島根・出雲市立高松小
会員部員	宮本 崇広	島根・出雲市立四絡小
会員部員	嘉藤真理子	島根・出雲市立みなみ小
会員部員	飯國 厚志	島根・出雲市立神西小
会員部員	吉廣恭由子	島根・出雲市立塩冶小
会員部員	松村 敏明	島根・出雲市立第三中
会員部員	阿川 美和	島根・雲南市立三刀屋中
会員部員	古田真一朗	島根・雲南市立掛合中
会員部員	打田 敦志	島根・雲南市立掛合小
会員部員	加藤 泰寛	島根・雲南市立田井小
会計部 部長	松原 広行	島根・出雲市立第三中
会計部 副部長	立原 哲也	島根・出雲市立高浜小
リモート部 部長	井上 裕史	島根・出雲市立長浜小
リモート部 副部長	曾田 史郎	島根・出雲市立塩冶小
リモート部員	加藤日出夫	島根・出雲市立今市小
リモート部員	有田 幸樹	島根・出雲市立北陽小
リモート部員	嵐 真一	島根・出雲市立河南中・神戸川小若松分校
リモート部員	廣野 克巳	島根・出雲市立河南中
リモート部員	桑原 尚志	島根・出雲市立第一中
リモート部員	北脇 訓	島根・出雲市立南中

# 会場図

